

論 説

フランス人民戦線の地方史的研究（一）

—一九三四—一九三九年ピレネー—ゾリアンタール県における共産党の歴史—

平 田 好 成

「七年間遂行してきた使命を再び果たします。再任された使命の偉大さと重大さ、全国民を結果するため、私の義務をより一層真剣に実行します。」

ミッテラン仏大統領再選、勝利宣言、シャトーシノン、一九八八年五月八日午後九時。

大衆の幸福に対して（一九三四—一九三九年）

一 連合の豪華な道（一九三四年二月—一九三六年八月）

『ファシストの脅威』の前に、後退のため前進 二月七日、ダラディエ政府の辞職の報知を後に続いた、パリで一九三四年二月六日の諸事件の報知は、ベルピニャンで労働総同盟の周りに、左翼の組織の選択式の動員を引き起こした。J II ベルタ Joseph Berta は、単にフランス共産党と統一労働総同盟に反対して除名で発した。二月八日、最初の集会は、二

月一二日の抗議のストを組織することが、可能であったことを指示した。そして、参加者たちは、二月一日日曜日、午後、その様式を焦点を合わせるため、再び見出すことに意見が一致した。好機は、共産党の指導者たちに対して、彼らが活気づけた、組織の反ファシズムの前衛の役割を確認させるように有効なように見えた。『反戦と反ファシズム闘争委員会』の名において、実は、共産党の指導者たちは、反デモを要請した。事實は、反ファシズムの勢力の主要な部分、約五〇名の人々は、共産党の活動家たちによって供給された。統一戦線は、警察の兇暴性に反対して、街頭に実現するばかりであった。翌日、ストは、統一された。人々は、二月一二日の午前、労働取引所で、約一、五〇〇人を集めた。集会に観察することはできた。並んで、労働組合の資格で、フランス社会党連盟書記、G II ペジエール Georges Peires、及びベルビニヤン共産党地区書記、M II リユ Michel Riou。人々は、ピレネーゾリアンタール県（人口約二〇〇万）において、あらゆる左翼の勢力の間、統一行動が、実現する気になっていた、瞬間を信じるようにできた。リユは、二月一四日、『社会党で共産党の連合の支持者』という意思表示するようにためらわなかった。二月一六日、ピレネーゾリアンタール県の共産党員たちは、急進党青年同盟の主導権の下で召集された集会に対して、二人の代表者、ギセ Joseph Gussat とポールス Paulus を派遣した。カタルニヤの共産党員たちは、フランス共産党の全国的な及び地方的な指令に対して、一直線に立場について見出された。二月二四日のラングドックの労働者紙において、E II ファジョンは、共産党員たちを用心させた。受諾は、地方的書記に対して、『致命的な誤り』を構成した。三月三日、M II リユは、『かつてないほど批判は必要である』という、標題を付けられた、ラングドックの労働者紙の社説について、撤回した。三月八日、ベルビニヤンで、左翼の組織の統一戦線の時期尚早な企ては、終了した。各組織は、その行動の自由を取り戻した。しかし、共産党員たちにとって、統一された運動を弱まるままにして置くことは、問題ではなかった。『社会民主主義に反対する激しい闘争』は、四月八日の地方的協議会のスローガンのままであった。動力を与える役割は、反戦と反ファシズム闘争委員会に帰着した。

**分子によって矛盾の爆発、アムステルダムブレイエル委員会の役割** 二月一日のスキヤンダル以降、アムステルダ

ムープレイエル委員会は、余り活動的にならなかつた。パリで五月二〇日予知された、アムステルダム・プレイエル委員会全国連合の準備は、地方的委員会の活動を推進するように機会であつた。五月一三日、地方的『大反ファシズム連合』は、パリの大会に対して代表たちの選挙を執行するため、ベルビニャンで起るはずであつた。その準備完了は、県において統一された思想を進展させた。『あらゆる労働者サラリーマンたち、農業日雇い労働者たち、労働者農民たち、職人たち、商人たち、サラリーマン小官吏たち、在郷軍人たち』を、ファシズムに共通敵に反対して、連合を要請して、及び『闘争委員会を形成するため、労働総同盟員たち、未所属員たち、統一労働総同盟員たち、共産党員たち、社会党員たち、未組織者たち』を招いて、約一〇の集会は、闘争委員会に対して、堅い民衆的な基礎を与えた。ベルビニャンで、メーデーは、共通の集会に、二つの労働組合の組織の活動家たちを再編成した。疑いもなく、午後、統一労働総同盟は、『あらゆるフランスの労働者たちの名でソヴィエト共和国を救う』ため、集会を組織した。しかし、要点は、労働組合のレヴェルで、連合は、実現した、及び連合は、アムステルダム・プレイエルの特徴の下に、実現されたことに留まつた。実際、統一労働総同盟系労働組合及びアムステルダム・プレイエルによって代表として派遣された、JIIギセと、JIIベルタ、ソラージュ *Solange* 及びベジエールによって導かれた労働総同盟系労働組合の代表者たちの間、出合いの時、それは、四月二四日である。五月一三日、アムステルダム・プレイエル県大会は、ベルビニャンで開かれた。強度の宣伝によつて準備された、県大会は、JIIギセの主宰の下に及びEIIファジョンの前に約一〇〇の地方的代表たちを集めた。人々は、革命において大衆を発するように、兵営において武器を取るように、行動の諸グループを形成するように話した。午後の集会に、JIIル Joseph Rous の到着は、事件であつた。彼は、『革命家とマルクス主義者、従つて行動統一の支持者』であると表明した。プラド *Prades* 選挙区のフランス社会党の代議士は、アムステルダム・プレイエル運動の利害関係者であつたし、フランス共産党で行動統一を願つた。社会党代議士たちに関して、EIIファジョンの批判にもかかわらず、語調は、統一のものであつた。五月と六月の間、アムステルダム・プレイエル運動は、左翼の組織の間、行動統一のあら

ゆる支持者たちの引力の極に留まった。五月三〇日、フランス共産党中央委員会によって、社会党系労働者たちに、テールマンを救うため、社会党の諸支部と常任執行委員会に発せられたアピールは、社会党組織の側に、及び両党の間、仮定的な協定を期待しながら、決して成功を遭遇しなかった。パリ大会の報告書は、六月の間中、統一された精神を維持し続けるように可能にした。

**統一された若さの源** フランス共産党が、決定的に社会ファシズムの理論を放棄したし、七月二十七日、行動統一協定の署名で後に続けられた、フランス社会党に対して救いの手を差し伸べた、一九三四年六月二三日から二六日まで、セーヌの上にイヴリーの全国協議会は、二つの組織の間、平和的な対決を開始した。ピレネー・ゾリアンタール県において、社会党は、『階級対階級』戦術が、条件を陥れた、小会派の条件から外に出られたとして認められた。しかし、両党間のこの明白な不均衡は、われわれを、この別の現実を包み隠すはずはない。二月の諸事件以来、アムステルダム・プレイエル運動を横切って、統一された力学は、党の影響力が発展したし、定員数が増大された、共産党を考慮して演じた。統一労働総同盟は、その定員数を増大するように見えた。とりわけ、六か月に、統一労働総同盟が一七八の加入者たちを獲得した、ベルピニャンで。党は、強化された。約一五の加入は、二月以来、実現された。しかし、レオ・ワイゲールの刺激の下に、驚くべき発展を知っていた、共産主義青年同盟は、互いに避け合った。二月から七月まで、共産主義青年同盟は、六七人の新しい加入者たちを獲得した。その中、ベルピニャンの単なる都市のため、二四人。量的観点以上の、それは、ピレネー・ゾリアンタール県において共産主義青年同盟の復活を評価する必要がある、質的観点である。進取の気に富む組織は、青年たちの細胞に後を継いだ。これらの努力の論理的な成果は、一九三四年六月一七日の、共産主義青年同盟のピレネー・ゾリアンタール県の共産主義青年同盟の地方的協議会の時、創立であった。創立は、数か月から、フランス共産党のピレネー・ゾリアンタール県の創立を予定より早く行った。今後、ベルピニャンが定着した、重要性は、フランス共産党の干潮の時期の特徴的な現象として出現することができた問題は、構造上の現実になったことを確認

した。ピレネー・ゴリアンタール県における党の中心点は、ベルピニヤンの方に田舎を移動させた。県における党の異なった地理的な構成要素の間、優勢であった、この関係の基本的変化は、地方的な政治的及び経済的現実で、共産党の組織を合致して配置した。もしこの変化が、ベルピニヤンの細胞の発展を表したならば、この変化は、農村の細胞のレヴェルで、影響力の再均衡の表現であった。ピレネー・ゴリアンタール県における共産党諸勢力のこの新しい均衡は、一九三四年七月―八月の最初の大きな統一されたデモの時、明るみに出現するようになった。『統一の及び行動の』最初の集会は、七月二九日、ミラス Miras の小郡において起こった。反ファシズム及び反戦闘争の特徴の下に置かれた、集会は、五〇〇と一、〇〇〇の人々の間、集まった。八月五日、ベルピニヤンは、交替したし、彼の最初の統一されたデモを知っていた。一、〇〇〇以上の人々は、共産党の、及び社会党の演説者たちを聴いた。フランス社会党の連盟の指導部は、後退して留まった。八月五日の集會に、いかなる重要なフランス社会党もいなかった。ピレネー・ゴリアンタール県の社会党連盟は、対話者の欠如を理由にすることはできたことは、真実である。ベルピニヤンの共産党地区は、県の全体の余り代表的なことではなかった。八月一九日、ピレネー・ゴリアンタール県の共産党地方の構成する協議会は、この状況を終わらせた。

**新しい流れに対して、新しい地方** 一九三三年七月二三日の地方的協議会以降、事態は、順調になった。一九三四年四月八日の地方的協議会は、地方の分権化を準備するように目標を与えられた。幾つもの地方に、一九二五年に創設された全体を分割することは、重要であった。一九三四年初めから、ベルピニヤンの地区の責任者たちの方向の下に、カタルニャの県の共産党員たちは、ある自治で振る舞った。彼の県移管化に帰着した、共産主義青年同盟の発展は、はっきりと道を指し示した。社会党連盟で議論するため、党の生活に対して、七月から殺到した。新しい共産党員たちを統合するため、共産党の県の組織の配置は、是非必要であった。八月一九日の夕方、それは、済んだことであった。地方書記は、県における新しい来た人、ピエール・テラ Pierre Terrat であった。一九〇八年にスペインのカタルニャに生まれた、P II テラは、一九三一年初めに、フランス共産党に加入した。国際的赤色救助隊の県の会計係である、彼は、モスクワで一年

の国際的學校を行うようにするため、地方局によって提案された。一九三三年一月一日、ソ連邦の首都において到着して、彼は、一九三四年二月に、マルセーヤン *Marsellian* (エロー県) で戻つたし、以来、地方局の會議に参加した。一九三四年五月に、エティエヌ・ファジンは、ラングドック地方の分権化の枠内において、ピレネー・ゾリアンタール県の地方の書記になるため、彼は、指名されたことを、P II テラに通知した。E II ファジンは、彼の生活の未來の手段について問題を提起された。P II テラは、規律正しい活動家になる決心をした。現代の政治的隱語を使用するため、カタルニヤの県の組織の蘇生に対して主宰するため、『派遣者』の、党の上級の決定機關によって、選択は、驚かせることはできる。ミシエリリユは、労働組合の専従職員になるまで、選ばれた。彼は、当時、統一労働総同盟の第一〇番目の地方的連合の先頭に立つた。いずれにせよ、J II ギセは、事実であつた。『階級対階級』という時期によってマークされた、彼は、機能の外観を持っていなかった。しかし、それは、フランス共産党の全国的決定機關の議決において最も重要であつた、この新しい地方を指導するため、この新しい人間の選択が提供した、諸利益であつた。人々は、P II テラは、闖入者としてピレネー・ゾリアンタール県において迎えられる、共産党の活動家たちは、上部組織から来た議決に反対するため、及び彼らの新しい書記にいやな顔をするため、彼らの組織の弱点を意識していたことを、信じるように間違つたであろう。七月末以降、活用された行動統一は、一九三四年一〇月七日と一四日の県會議員選挙の時、選挙の火の試練を立ち向かいながら、彼の有効性を証明するように好機を持つていたであろう。

**選挙人たちの承認** よりよく第一回投票に置かれた立候補者に対して、第二回投票に対して、体系的に立候補取り下げの特徴の下に、展開するように最初の選挙、すなわち、一〇月の県會議員選挙は、強力な統一された飛躍によって、ピレネー・ゾリアンタール県においてマークされなかつた。党の全国的綱領において、共産党は、フランスの労働者及び農民政府の空想に対して、可能なこと―選挙体系の改革、軍事予算への反対、ソ同盟の防衛、労働所得の防衛、及び失業に反対する闘争―を快活に混ぜ合わせた。『行動統一の党』という自ら宣して、フランス共産党は、行動統一を前面に押し出

さなかつた。党の自己同一性(独自性)を確認するように不安、すなわち、この立場は、いささか疑い深い社会党の、左右対称の、立場を接合した。共産党は、一二の小郡において立候補者たちを呈示した。共産党は、社会党員たちに対して、共同戦線の意見を防衛するように注意を任させた。共産党員たちは、彼らの票を拡大させるばかりでなく、一九二八年以降失われた投票の大部分を見出すことを希望した。共産党の立候補者たちは、念を入れて選ばれた。立候補者たちの間の半分は、普通選挙に立ち向かつた。その立候補者たちは、フランス共産党が話し掛けた、あらゆる社会階層―労働者たち、農民たち、小商人たち、鉄道労働者たち及び官吏たち―を代表した。キャンペーンは、てきぱきと片づけられたし、多数の選挙の集会は、数一〇〇人の聴衆を移動して、現実の成功を知っていた。第一回投票の結果は、一九三一年の県会議員選挙に比べて同様に、一九三二年の国民議会議員選挙に比べて、共産党の票のはっきりした進行を指し示した。人々が、比較の言葉として、一九二八年の国民議会議員選挙あるいは続いて起こつたし、一九三四年に同じ選挙区に掛かつた県会議員選挙を利用する時、二つの確認は、是非必要となる。もし人々が、ブラードゥーモロ *Prats-de-Mollo* 小郡において、一九二八年にフランス共産党の重要な進歩の地方的挿入節を考慮しないならば、到る所、党は、一九二八年一〇月の党の票を見出す。あるいは、それに近いところである。ラトゥールドゥーフランス *La Tour-de-France* 小郡において確認された一七票の改良とリヴザルト *Rivesaltes* 小郡において共産党の票の安定は、新しい路線が、ゲード主義によって最もマークされた小郡において、最も大きな賛同を出会つたことを指示する。良心的にフランス共産党の新しい路線を尊重して、第二回投票に対して、党の立候補者たちは、彼らの左翼の競争者を考慮して立候補を取り下げられた。共同戦線の希望の使者及び第二回投票に対してフランス共産党の単なるリーダー、すなわち、共産党の立候補者は、社会党の活動家たちの援助で、群集を移動させた、果敢なキャンペーンを行った。一〇月一四日の夕方、共産党の立候補者は、彼の敵に対して一九二三年に反対して、一、六四三票の全体で、選挙区の全体について敗北された。参加が、はっきりと第二回投票より優れたとはいえ、共産党の立候補者は、エミールダルデンヌ *Emile Dardenne* に対して、第一回投票の共産

党の及び急進党の票の全部に比べて、一二九票を欠けていた。リヴザルトの共産党員たちは、別の小郡において、共和派の規律の尊重は、欠陥なしでいられた、及び社会党のそして自治の急進党の立候補者たちは、選ばれただけに一層多く辛うじてこの一種の裏切りを体験した。総選挙と作られた共産党の善意の試練を通過して、地方の指導者たちは、社会党が、共産党―社会党協調委員会の形成によって、地方的に行動統一を具体化するよう受け入れた、社会党から手に入れるように努力した。県会議員選挙の結果、フランス共産党の地方局は、出合いが、一〇月二四日、両党の代表たちの間、このテーマについて、行われたことは、フランス社会党連盟執行委員会に対して提案した。一〇月三〇日、委員会の利益に対してやっと演じるようになった、選挙の同盟を満足して、しかし一九三五年の市町村議会議員選挙の展望において手を結ばれないように心配して、連盟執行委員会は、常に返答しなかった。もう少し後に、委員会は、幾つかの共同集会の開催に対して、委員会の原則的協定を与えた、しかし、共産党で共同行動の道において先に進むように拒絶した。社会党員たちをもっと行動的な協力に仕向けるように希望を保持しながら、共産党の指導者たちは、フランス共産党の聴衆を強化するため、一九三四年の最後の月を利用した。

**新しい根源、最初の成功** 恐慌が、いかなる減速を知らないで、失業者たちを考慮して行動は、党に対して、社会的領域において彼の最初の成功を勝ち取るように可能にした。六月二八日から、ペルピニヤンの失業者たちの委員会は、市当局の側から、一日毎に七フランで失業の手当の日々の数の一二〇日から一八〇日までの通過、一日毎に三フランから四フランまでの配偶者の手当及び一日毎に三フランから三、四〇フランまでの子供につき手当を手に入れた。要するに、市の工場は、開いた。次いで、組織（定員数、一二月で九〇〇人）の圧力の下で、市当局は、失業者たちを、地方的課税から免除したし、追放に反対して、彼らの家賃を支払うことはできなかった、人々を保証した。J・ギセは、年の終わり頃、村々において、そして特にリヴザルトで、新しい失業者たちの委員会の設定を奨励した。平行して、スペインの危機の定刻に、共産党は、『プロレタリア国際主義』で示した。それは、ピレネー・ゾリアンタール県において設備された強いス



ペインの共同体及び最近帰化された住民の重大な分派を無関心なままにさせて置くことはできなかった。カタルニャにクーデタの企て及び、一〇月に、アストリアスの反乱が、フランス共産党の地方局が、委員会に提案したように、社会党連盟執行委員会を、『スペインの革命家たち』を考慮して、行動と協力するのに仕向けられなかったもので、それは、県の反ファシストたちを再編成されるように試みた、アムステルダム・ブレイエルの地方的委員会であった。一九三四年一月二七日のラングドックの労働者紙において、J・リギセは、そのカタルニャの連帯を要請した。一九三四年この終わりに、ピレネー・ゾリアンタール県においてフランス共産党の強化は、否定できなかった。共産党員たちの数は、ペルピニャンで、一二〇人から一八〇人まで移った。リヴザルト地区は、ある若返えりを認識した。共産主義青年同盟は、一五の細胞に分配された、一五〇人の加入者たちを数えた(目的は、二〇の細胞に、一一〇〇人の活動家たち)。地方局(各週)と地方的委員会(各月)は、集まる習慣を取った。地区の指導部たちは、同様であった。細胞は、週の集会のリズムを持っていた。ペルピニャンのユマニテ紙防衛委員会の一九三四年一月二四日は、シンパたちと新期加入者たちを引き起こすように特権を有する手段であった。一九三四年一月二四日と二五日、ペルピニャンでユマニテ紙の大量の売上は、正規の普及を始めた。この復活は、限界を持っていた。一月末、ピレネー・ゾリアンタール県において、『パン、平和、自由のための人民戦線』のスローガンを発しながら、フランス共産党は、急進党員たちの方に行動統一を拡大しながら、社会党員たちと急進党員たちは、酷評された時期に、共和的な伝統の後継者として提起された。一九三四年一月九日と十六日のテュイル・トゥンと東ペルピニャンの補欠県会議員選挙の時、共産党の立候補者たちの統一された行動は、フランス社会党の立候補者たちの第二回投票に対して選挙を可能としたし、フランス共産党が、党自身から与えることを願った、イメージを強化した。しかし、左翼の内部に統一された運動は、単に選挙の問題ではなかった。その運動は、労働組合の場について、県において、統一労働総同盟の主導権に対して発展した。一月二二日、南部組織網の組合所属の鉄道労働者たちは、彼らの組織の統一を執行するように議決を選んだ。鉄道労働者たちに対して、労働総同盟、統一労働総同盟と

いう連盟は、もはや存在しなかったし、単独の統一された連盟は、存在した。リヴザルト等で、組織された鉄道労働者たちの集団は、統一労働総同盟に対して、集団であった、ピレネーゾリアンタール県において、それは統一労働総同盟、間接に共産党である。平行して、リュは、年の初めから、ピレネーゾリアンタール県においてほとんど存在しなかった労働総同盟、統一労働総同盟及び無所属の組織から、農業労働者たちの地方的統一労働組合を創立するように努力した。一〇月末で、九名のメンバーたちの統一地方的委員会は、あるべき場所にいた。一二月に、二重のシリーズの集会は、ピレネーゾリアンタール県において、労働者農民総同盟の及び統一労働総同盟を周りに、農業労働者たちの人々を動員した。これらの巡業の目的は、二つの大会、一九三五年一月六日、ベジエ Beris で開催されるはずであった、労働者農民総同盟の小ぶどう栽培者たちの大会と農業労働者たちの大会を準備するようになった。そこで、二月一〇日のため、連合大会の開催は、一〇七人の代表たちによって決定された。ピレネーゾリアンタール県の強い代表は、事件に参加したし、代表の訪問は、党の地方的責任者たちによって組織された。このように、一九三四年のこの終わりに及び一九三五年のこの初めに、労働組合統一の考えは、是非必要となった。従って、社会党に対して、統一された運動の周辺に留まるように見えることは、及び共産党に対して、この領域において動力を与える役割を任せることは、もはや可能ではなかった。パリで及び地方に、特にベルピニャンで、共同諸集合のある数を開催するように社会党の及び共産党の調整全国委員会の議決は、社会及び共産諸党の調整県委員会の準備完了で続いて起こった。委員会の最初の主導権は、ガール県のフランス社会党代議士、カスタネ Castané の、及びフランス共産党中央委員会のメンバー、フロリモンポントの参加で、ファシスト諸団体の武装解除と解散のため、集会の組織であった。

**目的及び手段という連合** 一九三五年一月二〇日の午後、二人の全国的演説者を聴くため、サンルイ広間において押し合った、約三、〇〇〇人は、歴史的事件に参加するように印象を持った。行動統一協定の締結以来初めて、共同集会は、ベルピニャンで、社会党員たちと共産党員たちを公式に集めた。集会の事務局は、ベルピニャンの社会党支部の副書

記、議長、M IIカロラ Michel Carola の周りに、人民戦線のあらゆる政治的構成要素の代表者たちを再編成した。人民戦線は、県において、フランス共産党、フランス社会党、自治急進党員たち、プロレタリア統一のグループ、共産主義青年同盟、社会主義青年同盟、急進党青年同盟を計画的に行動したように、最重要の社会党の選挙当選者たちの欠席は、一月二〇日、ベルピニャンで、人民戦線は、現実になるため、スローガンであるように止めたことは、妨げることはできなかった。戦闘的な反資本主義でマークされた、社会党員たちと共産党員たちの演説の後、赤旗を先頭に及び『ランテルナシオナル』の調べで、都市を積切った、行列は、形成された。到る所で、フランス共産党は、フランス社会党で『提携して』このデモをマークした。二月一〇日と三月一〇日、二つの別の統一された集会は、県において、フランス共産党一フランス社会党の同盟の現実を公に確認しに来た。上部組織でこれらの統一されたデモは、運動のもっと構造化された組織を願った、共産党員たちを見れば、人民戦線の動的な可能性のその直ぐ下にいた。しかし、諸デモは、デモの諸勢力を發展させるため、理想的支持を構成した。この統一された流れにおいて、実は、一九三五年二月と三月の共産主義青年同盟の募集の例外的努力を置き直す必要がある。共産主義青年同盟の責任者、レオリフィゲール、及び地方の共産党の責任者によって活気づけられた二〇の集会は、党の細胞が存在した到る所で、組織された。加入者たちは、作られた。八つの共産主義青年同盟の新しい細胞は、創設された。もし成功が、党の影響力を發展させるのに貢献したならば、共産主義青年同盟の地方の組織において持ち帰られた成功は、党の聴衆を坐らせるのに足りることはできなかった。そして、三月三日、青年同盟の募集のキャンペーンを主張した、同じ地方的委員会を、当時の経済的闘争に直面して、党の活動の弱さを心配した。一連の地区協議会に及び地方的協議会(四月七日、開催された)に先行された、一九三五年五月の市町村議会議員選挙は、党が、統一された運動の先頭に置かれた以降、ピレネー・ゾリアンタール県において、フランス共産党によって作られた進歩を測るような機会であった。

一九三五年五月の市町村議会議員選挙、『公の諸事件』に対する控え目な復帰 二月初めで、P IIテラは、党が、党の

固有な綱領で、総選挙に進行したであろうことを確認した。その綱領は、その前の県会議員選挙の綱領と少しも違わなかった。三月三日、地方的委員会は、すべて選挙の裏工作と陰謀を非難した。この警告は、内部の慣習よりもっと党のパートナーたちに当てられた。警告は、共産党を、第一回投票から、多様な場所で、連合の名簿を形成するのを探し求めるように妨げるはずがなかった。左翼の内部に諸勢力関係によって推論された、リーダーの三つの大きな場合は、この際考察されねばならない。社会党が、支配するパートナーとして、そして選挙を勝ち得るように立場に出現した場合に、社会党は、ペルピニャン等のように、共産党員たちによって活気づけられた名簿と競争して、あるいはシエルペール Cardre 等のように、確認された、共産党員たちの支持で、単独に投票に行った。左翼の勝利は、もっと保証されなかったように見えた、そして共産党は、連合の主たる勢力を構成しなかった、地域において、色々な呼称で、名簿は、構成された。フランス共産党は、左翼の内部に多数派となった、市当局において、労働者及び農民ブロックという名簿は、準備された。名簿は、共産党員たちとシンパたちの多数派を含んだし、大きな連合の名簿と違って、名簿は、社会党員たちに対して、制限された場所を作った。それは、リヴザルトの共産党員たちが構成するはずだった、この名簿の型である。しかし、四月七日と一四日の補欠県会議員選挙に引き続いて起こる、地区に対して内部の危機は、これとは別の風に決定した。もし党は、リヴザルトの細胞を振り動かした、危機を包み隠すことを要求したならば、社会党員たちが、参加するように拒絶された、市町村議会議員選挙の直前に、労働者及び農民ブロックという名簿を失格させて、党は、ニュースが広まったことを、妨げることはできなかった。一九三五年五月一二日、共産党は、リヴザルトで、アピールなしに敗北を蒙った。党の名簿は、四七〇票という社会党の名簿を後ろに、平均して二五五票でどん尻に到着した。同様に、ペルピニャンで、J II ペイラ Jean Payra 等が熱中した、個人的色彩を与えられた闘争において、共産党は、単に補助の役割を演じた。P II テラによって導かれた労働者及び農民ブロックという名簿を立候補して、共産党は、敵たちの間に並んだ。四、七九八票で、ペイラ名簿は、はっきりと先頭に到達した。労働者及び農民ブロック名簿は、名簿の影響力を拡大しなかった。第二

回投票のため、ペイラは、四つの議席を提供した。社会党の立候補者たちは、一九三五年五月一二日の夕方に、勝利を得て選ばれた。リヴザルトの労働者及び農民ブロック名簿の敗北及びベルピニヤンのブロック名簿の停滞は、県の色々な地域に、共産党の立候補者たちによって勝ち取られた重要な成功を包み隠すことはできない。総選挙は、農村環境に、党の堅固な定着の証拠をもたらした。二、〇〇〇以上の住民のこれら二つの市当局の征服で、フランス共産党は、党の政治的孤立から出たし、党の影響力の定着に対して、最小の物質的基礎を獲得した。多数の市会議員たちは、大きな連合の名簿について選ばれた。エルヌエムの地域は、四人の共産党員たちを選んだ。左翼の選挙人たちは、共産及び社会諸党が、配置することはできなかった、共同戦線の市当局を与えられた。社会党の名簿に直面して、そして人民戦線に対して有利でない名簿に反対して、労働者及び農民ブロック名簿の立派な保持は、田舎において、フランス共産党に対して有利な流れの实在の確認をもたらした。最後に、共産党員たちによって支持された反ファシズムの名簿の成功は、ピレネーゾリアンタール県の民衆的階層において、統一された感情の深遠さを強調した。

**統一された祝祭と社会党の困難** 左翼の勢力の選挙の勝利のこの背景において、実は、人民戦線の公式の誕生をマークするはずであった、一九三五年七月一四日のため、ベルピニヤンで組織された反ファシズムの連合を評価する必要がある。首都からピレネーゾリアンタール県の疎遠及びベルピニヤンで社会党の市当局の選挙は、その結果、あらゆるエネルギーが、共産党員たちが、彼らの願いの六月末から訴えた、大きなデモの成功のため、社会党員たちの内にあって一時のためらいの後、動員されたことになった。一九三五年七月一四日、一五時三〇分まで、全県から来た、五、〇〇〇から一五、〇〇〇まで人々は、アラゴ広場を集められる。一六時で、行列は、進め始める。次いで組織委員会、ベルピニヤンの市当局、県の選挙当選者たちは、やって来る。次いで活動家たちは、人民戦線を構成する色々な組織の団旗の後ろに並べられる。プラターヌ遊歩道で到達して、デモは、動かなくなる。一五人の演説者たちは、共和的機関の連合と防衛を要請する。スローガンは、徐々に広がる。演説が終わって、行列は、カタルニャ広場に止まるため再出発する。マルセーエーズとラン

テルナシオナールの演奏の後、連合は、解散する。行動統一によって移りながら、阿姆斯特ダム・プレイエル委員会によって活気づけられた反ファシズム闘争から、人民戦線に帰着するために、数年の暗中模索の完成、すなわち、一九三五年七月一四日の成功は、ピレネー・ゾリアンタール県の共産党の地方のため、明白な満足の動機であった。しかし、この成功は、二つの危険をもたらした。一九三五年夏と秋の間、フランス共産党の主導権で組織された、色々な集会は、統一された圧力を維持した。社会党に対して内部の闘争は、九月末、社会党員たちのある人々を、行動統一の道において掛かり合うように駆り立てた。カタルニャの社会党の内に対立は、人民戦線の関係を締め直すように思われた。北カタルニャの人民戦線の建造が、社会党の内部の困難によって再び疑問視されたことは、地方局は、大目に見ることはできなかった。一月に、ピレネー・ゾリアンタール県の共産党の地方は、フランス社会党に対して公開状を送付した。社会党の内の人々の対立は、左翼の全体に駆け付けさせた。

**統一された前進及びフランス共産党の自治の実践** フランス共産党の地方的指導者たちにあつては、彼らの主なパートナーの困難は、誕生させた、不安を誇張する必要がなかったであろう。一九三五年九月に、労働総同盟の及び統一労働総同盟の平行した諸大会から記録された、労働組合の統一の展望は、諸大会を統一された運動を強化するように見え、処置は、一〇月からピレネー・ゾリアンタール県の二つの地方的連合を統一させるために、取られた。一二月二二日、大会は、ベルビニヤンで労働総同盟員たち、統一労働総同盟員たち及び無所属組合員たちを集めた。新しい執行委員会は、少数派に対してどっさり分け前を遣った。県においてフランス共産党の最初の指導者の県連合の事務局に対して、入会、すなわち、P II テラ等は、指導部の主な機関において、共産党員たちと旧労働総同盟員たちの平等な代表を保証した。全体として、労働組合の統一は、ピレネー・ゾリアンタール県において、旧労働総同盟よりもっと旧統一労働総同盟に役立つように見えた。平行して、人民戦線は、県の組織を与えられた。一〇月初めで、三六の組織を再編成する、人民戦線県委員会は、委員会の事務局を選ばれた。新しい構造の責任者たちの誰も、二つの連合の大きな党の一つに所属する再重

要の人間ではなかった。県委員会は、諸党のその先に特別の行動を推進するように可能な機関としてよりもっと、人民戦線の約束の重大さの保証として現れた。統一された運動の地方的横滑りを予告するように及び急進党員たちに対して運動を拡大するように心配して、フランス共産党の地方局は、一月二五日、人民戦線県委員会によって取り戻された、『地域によって人民戦線委員会の』スローガンを、一月初め、発した。地方局の成功は、多様であった。人民戦線とその統一された力学は、共産党のため、神話的統一党において党の獨創性を弱めるのを口実でなく、強化の機会であった。もし共産党諸組織が、人民戦線の集会对して参加するように好機を失わなかったならば、共産党諸組織は、彼らの固有な宣傳を行うことを断念しなかった。八月一日、ミラスの近くで、田舎の大きな祝祭は、起こった。約一、〇〇〇の人々が、そこで、ガブリエル・ペリを聴いた。善良の雰囲気、家族の影響力は、心の込もった環境を設立した。一月二日、ベルピニヤンの市の劇場で、ユマニテ紙防衛委員会の大きな民衆的な祝祭は、明白な成功を博した。ユマニテ紙の威厳、行き先は、共産党に対して、新しい加入者たちを仕向けるはずであった。社会党から来たある人々<sup>二二</sup>。

**復帰と移動、定員数の増加** ビレネー・ゾリアンタール県において、フランス共産党が当時知っている、明白な加入の流れは、算定するのに極めて困難である。青年たちの幾つかの地区の实在は、定員数が増え続けたことを指示する。共産主義青年同盟の書記局への選挙は、青年同盟に対して、この最初の危機を克服するように可能にするはずであった。党の細胞は、重要な増大を知っていた。一九三五年一〇月から一九三六年二月まで、六つの新しい細胞は、誕生した。フランス共産党の加入者たちの数が、五二〇人で評価された、一九三五年二月二九日の地方的協議会に対して、七二人の代表たちの存在、ユマニテ紙防衛委員会の設立は、人民戦線の選挙の成功の前に、フランス共産党の離陸のこの印象を強化する。一方について、新しい加入者たちは、一九二九年の追放の犠牲者たちにあつては、募集された。この流れは、行動主義者たちの、及び稀なドリオ主義者たちの幾つかの辞職によって、埋め合わせられた。新しい加入者たちの第二のグループは、社会党のメンバーたちから由来したであろう。しかし、もしこれらの最初の村会議員の発展が、一九三六年の国民

議會議員選挙の後、県においてフランス共産党の影響力の発展を反映するならば、発展は、一九三五年に党の定員数の増大の起源を説明するため、議論で役立つことはできないであろう。そのように、社会党の対立は、共産党の方へ政治的行動において積極的に関与した不決断者たちの選択を導くことに貢献した。新しい加入者たちの大きな大隊は、結局、組織に未加入の人たちにあつて、募集された。

**闘争の先頭に、ベルビニヤンのぶどう取り入れ人たちのスト** 生活水準の低下に直面して、共産党は、宿命への服従以外の態度が可能であつたことを証明するように企てた。共産党は、特にベルビニヤンで、サラリーマンたちの行動的好感を引き寄せるはずであつた。確かに、二年以来、失業者委員会は、大きな援助を手に入れた。賃金の低下は、労働者家族の上に中断された常に身に迫る危険であつた。共産党の指導者たちは、彼らの側のあらゆる利点を配置した。彼らは、場所、時期及び対立の口実を選んだ。対立は、ベルビニヤンで、展開されたであろう。県庁所在地において、彼らが突如開始したであろう運動は、最も大きな宣伝を浴したのである。運動は、ぶどう取り入れの初めに始まつたであろう。男性たちのために三〇フランと三リットルのぶどう酒の、女性たちのために二〇フランと二リットルのぶどう酒の毎日の賃金は、一九三五年七月二二日のナルボンヌの農業大会に対して、彼らの扇動の主唱者たちを非難させることはできなかったであろう。ベルビニヤンのぶどう取り入れ労働者たちのストの共産党の組織者たちは、でたために何も任せられなかつたであろう。九月九日始まつた、ストは、一〇日と一一日広がる。偶発事は、ぶどう園において爆発する。約一、〇〇〇の人々が、統一労働総同盟の及びフランス共産党の責任者たちの行動の下に、法務省の宮殿の前にデモをする。一七日、協定は、作られる。土地所有者たちは、男女ぶどう取り入れ人たちの賃金を二フランだめ増額するように受け入れる。この勝利は、共産党の成果であつた。そして、Pレテラは、このストから、ベルビニヤンで及びビレネーリゾリアンタール県において共産党の真の『離陸』を日付を書き入れる。共産党の活動家たちは、離陸を高価な犠牲を払うはずであつた。九名のフランス人の受刑者たちは、すべて共産党の活動家たちであつた。共産党の威厳は、結局増大されたし、党の影響



力は、ペルピニャンで結局強化された。一九三五年一月二〇日の上院議員選挙に対して、共産党の立候補者たちの驚くべき得票結果の起源を求めめる必要がある、そうした場合である。楽天主義で、実は、ピレネーゾリアンタール県の共産党員たちは、一九三六年四月二六日と五月三日の国民議会議員選挙を取り組んだ。

一九三六年四月―五月の国民議会議員選挙、道理に叶った希望 三月二二日、拡大地方的委員会は、共産党の立候補者たちを選ぶために開催された。共産党の立候補者たちは、ペルピニャンの古い病院で、集会の時、四月一日提出された（ルロック Léopold Roque、Pilleta）。実際、ピレネーゾリアンタール県の共産党の指導者たちは、選挙民の動きの理由で、早くから、この選挙区が、党に対して最も有利であったことを評価した。共産党の立候補者の選択は、従って、著しい重要性をまとった（AIIジャンドル André Gendré）。共産党の左翼は、明白な注目すべき結集力を証明した。党において、人間の敵対関係、世代の敵対関係は、存在しなかった、多様性は、党において、統一の保証であった。この理想的イメージは、単に奨励金を与える準備のできた民衆的選挙民を誘惑することができた。国民議会議員選挙の第一回投票の結果は、カタルニャの共産党員たちの希望に相応しかった。県の全体について九、七八六票（登録者たちの一四、七％と表現者たちの二〇、六％）で、共産党は、一九三二年の総選挙に比べて、党の票を三倍にする以上を行った。そのように、結局、ピレネーゾリアンタール県の民衆的選挙民の傾向を、フランス共産党の有利のようにあるいは犠牲において、全国的選挙民の動きを拡大するのに検査された。成功は、はっきりした。票に、共産党は、二、八七六票で進展した。一九三六年の国民議会議員選挙は、同時に共産党の統一された動向の成功と、ピレネーゾリアンタール県において党の影響の地理の大混乱をマークした。もしあらゆる小郡が、共産党の票の重要な進行を知っていたならば、進行は、当時に入れた得票結果（サイヤグーズ Saillagouse の小郡の十一、〇〇〇％とリヴザルトの小郡の十三〇％の数字）に反比例した。この現象は、共産党の及び社会党の指導者たちによって、確認された予想を裏を書くはずであった。プラードの選挙区において、共産党は、左翼の先頭に見られた。AIIジャンドルは、彼の名について、二、七五三票を再編成した。シェ

レ Cimet の選挙区において、状況は、類似したように見えるかも知れなかった。P II テラは、彼の名について、選挙人たち、すなわち、行動的人民戦線の支持者たちの得票を集めることはできた。確かに、P II テラは、第三の立場に到着した。しかし、予期せぬ出来事は、ベルピニヤンの選挙区から来た。三、七七〇の選挙人たちを投票した、L II ロックは、社会党の立候補者を一四三票で追い抜いた。L II ロックは、彼の政見発表において、別の共産党の立候補者たちを一線を画するはずであった。ジャンダルとテラの政見発表は、綱領を地方的条件に対して器用に適合させながら、党の全国的綱領を取り戻した。L II ロックは、人民戦線の最初の意味、反ファシズム闘争を想起するのに捧げた。彼は、経済を改革するために解決法を見付けるように提案したし、『金持ちたちを支払わせること』という、その絶対不可欠の条件を与えた。この短い宛名は、『共産党の旗の下に先頭に、人民戦線の勝利のために。パン、平和と自由のために、共産党を投票せよ！』で終わった。彼は、人民戦線の統一された流れにおいて、彼の行動を記録して、フランス共産党のためにその流れを巧みに獲得した。彼は、ピレネーゾリアンタール県の労働運動の内に、勢力の状態及び意識の水準を考慮に入れながら、共産党の伝言を通過させることはできた。ベルピニヤンの選挙区において、フランス共産党の成功は、経済的闘争における彼の介入の実践の結果であったことを、失業者委員会の準備完了及び一九三五年のぶどう取り入れ人たちのストは、明らかにしたことを、確認しなければならない。四月二六日、ベルピニヤンで、共産党の成功は、L II ロックの均衡に負っていた。四月二七日、P II テラは、J II バレイル Joseph Parayre と A II ジャンドルのために立候補を取り下げた。四月三〇日、六、〇〇〇の人々が出席した、非常に大きな集会は、L II ロックとその前の日曜日パリの一三区の代議士として選ばれた、アンドレ・アルティを周りに、人民戦線の色々な構成要素の代表者たちを集めた。演説者たちは、才能で及び雄弁で匹敵した。この議論の結果を予測するため、A II マルティ等のように、カタルニヤの共産党の代議士たちの署名された、人民戦線を投票するようにアピールは、都市の壁にポスター等を貼られた。アピールの意味は、明白であった。ピレネーゾリアンタール県の住民は、二つの大きな中心都市の住民たちの外には、住民の選択において、もはや引っ込み思

案であることはできなかった。八、一七九票で、Lロックは、彼の敵によって、五三二票で追い抜かれた。左翼の票の移動は、全体として満足した。そして、共産党の立候補者の結果は、得票の総数を、二九七票で追い抜いた。連合の全国的勝利、フランス共産党によって、国及び県において獲得された新しい重みは、楽天主義に対して、党の選挙民のように党の指導者たちをもたらしした。

**光栄の時間** 人民戦線地方的委員会は、ベルピニャンで、大きな中央のデモに左翼の成功のあらゆる職人たちを集めるようにできる状態にあったため、六月一四日、期待する必要があった。赤旗と三色旗を小旗で飾られた都市において、一五、〇〇〇と二〇、〇〇〇の人々の間に評価された、群集は、集まった。印象的な光景、すなわち、一九三六年六月一四日の分列行進は、ジャーナリストたちを魅惑した。次いで、ゆつくりと、非常に大きい行列は、進み始める。人民戦線は、偉大な雄弁家の考えを完全に実現したし、新しい世界の最後の慰めをもたらす。いかなる賛同する演説は、内省の、力等の印象を困惑させようとしなかった。急進党の代表の存在によって強化された、人民戦線のあらゆる構成要素の全員一致の印象は、この歴史的な日から自由になった。県の残りにおいて、分列行進は、人民戦線諸党に対して、好機であった。

**遅ればせのしかし強い『社会的爆発』、一九三六年六月と七月のスト** 五月三日の選挙の規模の大きさは。政治的ゲームの条件を変え、少しも経済的及び社会的条件を変えなかった。恐慌は、続いたし、その結果は、重大化した。ブルム内閣の形成を先行した、一九三六年五月の不確かな時期において、ピレネーゾリアンタール県の経営者の一部は、労働の場について、経営者の一部が、政治の場について失ったように評価した、問題を取り戻すように企てた。ピレネーゾリアンタール県の企業の構造等は、マティニオン協定まで、ピレネーゾリアンタール県のサラリーマンたちが、国について拮がった、ストの波の前に形勢を展望したように説明する。五月末、単独のストは、ベルピニャンで建物の仕事場について起こった。マティニオン協定によって突如開始された、フランス共産党とフランス社会党によって支持された、労働総同盟の代表たちによって活気づけられた、ピレネーゾリアンタール県においてストの運動は、遅くに全国的年表

において記録した。皮肉に、ピレネーゾリアンタール県において、一九三六年に、事務所の占拠で初めての有名なストは、勃発するのは、それは、六月一日である。モリス・ストレーズは、『満足は手に入れられた時、ストを終えることはできる必要であることを』宣言する同じその日。間もなく、ストは、じわじわと広がる。ストは、先ず最初に、労働の場所について職員の中の最小限が存在する、企業と関係がある。六月二〇日、実際には、あらゆる建物の企業は、低家賃住宅等に使わせと働いた、大きな仕事場をスト中である。ストは、同じ時期に、県の全体に到達する。交渉は、企業によつて起こる。もし協定が、大企業のため、重要な企業の経営者たちで迅速であるならば、その代わりに、地方的市場のために働く中小企業の抵抗は、もつと長く続く。協定が、企業の一部と建物の労働総同盟という責任者たちの間に署名させるため、七月五日、期待する必要があつたであろう。しかしながら、七月一五日で、三六一の労働者たちを占拠する一九の事業所は、なお県において占拠されていたままである。七月一八日、動きは、もはや関係がない。そのように、ピレネーゾリアンタール県において企業の占拠でストは、同時ではなかつたし、一方のストは、他のストが始まる時終了するし、運動は、ゼネストの性格を取らなかつた。賃金に係る要求、職業のあるいは労働の時間割の展開は、革命的形態を取らなかつた、運動の単独のモーターであつた。それは、反経営者の不機嫌の幾つかのデモではない。しかしながら、危険は、運動の敵たちが、人民戦線のブロックを亀裂を付けるように試みるために利用したことを実在した。もし、六月初め、共産党の活動家たちが、建物の労働者たちをしつかり頑張るように駆り立てたならば、七月末、彼らの順番に、彼らは、ストを終えることはできる必要であつたことを確認した。

**大衆的党** 労働への復帰の労働者たちは、選挙とストの大きな波が過ぎ去つて、総括の時間をやつと来た。フランス共産党のため、党は、積極的な驚きであつた。五月、六月と七月の間、加入者たちの殺到は、最も楽天的な予想を追い抜いた。八日と一〇の集會に、共産主義青年同盟は、二〇〇の新しい加入者たちの彼の定員数を増加した。一九三六年六月二八日、P・リテラは、地方的協議会の前に、党の定員数が、一、〇〇〇の加入者たちを追い抜いたことを宣言することはで

きた。ほんの少しの誇張で、共產主義青年同盟は、その類似した数を要求した。大衆的党になって、六か月に党の定員数を二倍さらには三倍して、ピレネー||ゾリアンタール県においてフランス共產党は、今後党の票を到る所でほめかすようにできるはずであった。この見地において、共產党は、党の宣伝の武器であった、間隔を空けた集会をもはや満足することはできなかつた。年の初めに、地方的委員会は、ピレネー||ゾリアンタール県において週間紙、カタルニャの労働者紙を出版するように議決を取った。しかし、五月に、国民議會議員選挙の躍進の後、実は、計画は、止めさせた。小集団は、当時新しい新聞を焦点を合わせるために指示された。集団は、教諭フランソワ||マルティ Francois Marty (A ||マルティの甥)、彼の妻等を含んだ。いずれにせよ、資金の問題は、事実であった。未来の週間紙は、単にピレネー||ゾリアンタール県の共產党の活動家たちの献身を当てにすることはできた。週間紙は、ラングドックの労働者紙において、六月に訴えられた。もし数一〇〇フランが集められたならば、地方的委員会によって予約された、二〇〇の予約購読者たちの数は、第一号の新発売のために到達された。とりわけ、ユマニテ紙防衛委員会は、地方の週間紙の戦う売上を引き受けるように受け入れた。七月二五日、カタルニャの労働者紙の第一号は、三、五〇〇部で印刷された。統一の道を見出しながら、ピレネー||ゾリアンタール県の共產黨員たちは、ゲード主義の継続において職を得た。スペインの将軍たちの一揆及び続いて起こった内戦は、カタルニャの労働者紙のこの第一号において、人民戦線の内に対立の誘因を導くのに「三三」ずするようになった。次の年は、夢を薄らぐようになった。大衆的党として共產党の生き残ることは、ピレネー||ゾリアンタール県において、党の能力に依存するはずであった。三三

## 二 人民戦線の党 (一九三六年秋—一九三八年秋)

**核心にスペイン** スペインの悲劇が続いた、二年半の間に、ピレネー||ゾリアンタール県においてフランス共產党の活動は、妹の共和国の防衛を周りに優先的に組織された。疑いもなく、現象は、全国的であった。しかし、紛争の舞台の地

理的な近さと同じ共同体への所属の感情は、共和的なスペインを考慮して、ピレネーIIゾリアンタール県の共産党員たちの行動に対して、独自の音色を与えるために彼らの効果を結合した。スペイン共和国の周りに善意の可能な最も広い連合を組織するように、及び共和派たちに対して援助の物質的な手段を配置するように、二重の任務を直面させて、共産党の地方的指導者たちは、徹底的に国際的連帯の及び労働者統一の側に賭けた。

**カタルニヤの連帯** 紛争の初めから、共産主義青年同盟は、伝統とカタルニヤの記憶を再び活発させるように企てた。一九三六年八月八日のカタルニヤの労働者紙において公表された、明白な論文において、共産主義青年同盟は、ピレネーIIゾリアンタール県の青年たちを、『われわれの古い歌、われわれの古い地方的ダンス、あらゆるこの文化を再び研究する』ように要請した。もしこの宣言は、フランス共産党が、ヴィユールバンヌ大会以来専心した、全国的遺産の再評価の単なる地方的の蒸し返しとして現れるかも知れないならば、共産主義青年同盟は、折よく、同じ人民が、国境の二つの側を生かしていたことを想起するようになった。共産党の有力者たちのサークルを乗り越える、高名な後援の下に置かれた、カタルニヤの伝統の最初のフェスティバルは、成功であった。ベルピニヤンの競輪場の囲いにおいて、数一、〇〇〇の人々は、カタルニヤの踊る人たちのグループを熱烈に喝采したし、カタルニヤの言葉と一致して響いた。辛うじて一か月後に、AIIマルティで許可された声によって、党は、交替したし、明白に二つのカタルニヤを結び付ける親密な連帯を確認した。演説の用心の欠如で、国際旅団の責任者になった、黒海の古い叛徒は、彼らの同国人たちを、『ルシヨン（南西部の旧地方名、中心地ベルピニヤン）に、二つの断片にカタルニヤを分ける、まがい物の国境の別の側から生まれた、労働の及び闘争のあなたの兄弟たちが、多数であることを忘れないように』激励した。AIIマルティの抒情的なやり方において、この感情的な立場で、フランスの全体においてカタルニヤの県の場所を再問題視を推理することは必要ではない。ピレネーIIゾリアンタール県におけるフランス共産党の演説において、何も演説に許可しない。カタルニヤの自己同一性の確認は、その代わりに、スペイン共和国で連帯して、単なるプロレタリア国際主義によって命令された性質とは別の性質の資格を与

えるような手段であった。絶えず共産党によって確認された、ファシズムと民主主義の間に世界的闘争に対して、スペインの戦闘の身元確認で、カタルニャの自己同一性の確認は、勇気の事態の力を与えた。反ファシズム闘争は、当時カタルニャの価値の腐植土において定着したし、彼の名に、実は、レオニィフェールは、一九三八年七月に、スペインの叛徒たちを激しく非難することはできる。カタルニャの問題のこのアプローチの論理において、実は、一九三七年六月二〇日、フランス共産主義青年同盟の地方によって、次いで、一九三八年の終わりまで、フランス共産党の地方によって、フランス共産主義青年同盟とフランス共産党のカタルニャの地方の名称のため、ピレネー・ゾリアンタール県の彼らの名称を交換するように取られた、議決を考察する必要がある。これらの名前の変化の象徴的価値のその先に、人々は、もっと直ちに政治的不安を見抜くことができる。もし急進党員たちと社会党員たちが、共産党員たちを活動の場を占めるままにさせて置いたならば、地方の極右は、居合わせるように努力した。フランス社会党 P.S.F. の、そして特にフランス人民党 P.P.F. の新聞の見出しは、新聞が、カタルニャ主義の専有権を左翼に対して任せることを要求しなかったことを指摘した。カタルニャの自己同一性に対して、フランス共産党によって発せられたアピールは、アピールの限界を見付けた。連帯の拡大以上に、アピールは、アピールの掘り下げを引き起こした。スペインの共和派たちの側に、共産党員たちの約束の強さは、結局増加された。しかし、ピレネー・ゾリアンタール県の内に諸勢力関係は、少しも混乱させていなかった。

**統一された行動の限界** 県の左翼の選挙民のため、統一された行動がまとった重要性のように、フランス共産党の全国的戦略は、妹の共和国で連帯が、人民戦線を通じて通ったように押し付けた。極右、フランス社会党及びフランス人民党の組織の発展は、人民連合の諸党が、スペインの諸事件について共同の立場を経験したことを必要とした。フランス社会党もフランス人民党も、宣伝は、フランスの領土に対して戦争の拡大の危険のテーマの周りに、紛争のあらゆる持続時間の間、組織された。この国境の地方において、これらの議論は、議論が、親切に引き継がれただけに一層多く対象とした。これらの条件において、共和的スペインを考慮して運動の重要性は、運動の支持者たちの能力に依存した。そして、彼ら

の有効の試金石は、統一された行動のままであった。直ちに、スペイン共和国で連帯を組織するため、ピレネーゾリアンタール県において開催した。最初の公の集会は、その限界をマークした。ブルム政府が、共和派への武器をもちや引き渡さないように、及びいわゆる不干渉政策を配置するように決定した後、組織された、集会は、単に全国的な態度の決定を反映させた。この領域で、バルセロナ赤色援助隊の二人の代表たちを迎えるため、一九三六年九月一日、人民戦線委員会によって組織された連帯のデモは、模範的である。統一された形態の下に、二つのまちまちな観点は、デモに相對立した。共産党の観点は、一九三六年九月一二日のカタルニャの労働者紙の第一頁を線を引いた。同日の社会党員紙は、ルナールパークの彼の演説において、九月六日、レオンブルムによって發展された、『不干渉』への有利なテーマについて、デモを要請した。もし群衆が、会合の約束のものであったならば、五、〇〇〇の人々は、演説者たちを聴いた。急進党員たちは、デモをホイコットした。そして、社会党の選挙当選者たちは、強く控え目にさせた。精神的援助は、大きな救助ではなく、武装で有効な援助を考慮に入れる。干渉で援助を混同することは、語呂合わせの所轄である。従って、確認された二つの党のそれぞれの立場は、少なくとも互解まで、一九三七年六月に、ブルム内閣で今後ほとんど進展するはずでなかった。人民戦線の組織の内、フランス社会党の一時的な爆発の道は、開かれたままであった。ピレネーゾリアンタール県の共産党の地方は、道に掛わり合つたし、単に幾つかの地方的成功を手に入れた。一九三六年一〇月一日、シエルの民衆的組織は、ピレネーゾリアンタール県の知事に対して、中立性を再考するように要求する、動機を送付した。十一月五日、それは、封鎖の解除を要求するように、クレラCairaの人民戦線委員会が、そして十一月二三日、リヴザルトの委員会が、順番であった。しかし、これらのデモは、孤立されたままであった。そして、共産党の代表たちは、一〇月末、社会党員たち―共産党員たちの調整県委員会の全体が、封鎖の放棄を賛成したように手に入れたとはいえ、彼らの有権者たちを否認する、社会党の演説者たちは、あらゆる公の集会において、社会党が、当時不干渉を保持したことを正当化した。公に政府からその政策の変化を要求するように、カタルニャの社会党員たちの多数派の拒否の前に、そして、



一九三六年末から、不干涉は、著しく緩和させたことから、ピレネー半島アンタル県におけるフランス共産党は、スペインの主題に対して、党の主なパートナーは対して主題を結び付けた、問題を強調するように選んだ。一九三六年八月から一二月まで、週毎に、終始一貫、スペインと封鎖の停止のために武器を要求した。カタルニャの労働者紙は、一九三七年一月から、平和のテーマを優遇した。一九三六年一月一四日、現れた、その労働者紙は、一九三七年最初の三か月の間、真の基調テーマになった。そのように、左翼を分けた、スローガンは、統一されたスローガンの前に消えた。人民戦線によって遭遇された経済的及び社会的困難が、もっと敏感になされたことにつれて、スペインの諸事件につれて論文は、親切なルポルタージュのあるいは連帯へのアピールの口調になったし、大雑把なスローガンを放棄した。共産党の演説のこの発展は、ピレネー半島アンタル県においてフランス共産党に対して及び社会党に対して、共和的スペインの敵たちに対して共同戦線を呈示するように可能にした。スペイン人民で物質的及び精神的連帯の必要を加えて、協定は、暗に含まれて三つの点についてなされた。スペイン人の『ファシスト』亡命者たちの中心の県の方へ疎遠。県知事によって一九三六年九月に閉められたセルダーニュ *Cerdagne* の国境の再開。フランコ体制の空軍の上空飛行に反対するフランスの国境の防衛。もし、第一点について、共産黨員たち及び社会黨員たちが、要求を通さなかったならば、長らく前から、ピレネー半島アンタル県において、在留者のスペイン人たちが亡命者たちの家族の諸関係は、すべての微妙な行政的措施を表現した。諸関係の二つの別の要求は、考慮に入れられた。確かに、セルダーニュの国境は、理論的に閉められたままであった。しかし、人々の通過は、禁じられたままであった。鉄道の輸送は、一九三七年と一九三八年に、あらゆる輸送の重要性を再び見出した。国境の防衛に関して、防衛は、対空防衛の方策によって保証された。しかし、フランスの政府の不安を指示しながら、一九三八年六月にピレネー半島アンタル県において、内閣総理大臣、エドゥアール・ダラディエの到着は、フランスの領土の上部に再び身を危険をさらすように、民族主義のパイロットたちを思い止まらせるのに満足させたように思われる。この領域において、共産黨員たちの及び社会黨員たちの結び付けられた行動は、

政府の指導者の突飛な成功に帰着した。

**実践的な連帯の組織、重要な日に対して集まること** 共和的スペインでフランス共産党の連帯は、統一された政治的態度の決定を横切ってただ単に表現されなかった。人民戦線 *Frente Popular* に対して、援助の直線の活動は、強度に体験された個人的約束の好機であった。スペイン共和国で連帯の組織のこの努力において、二つのレヴェルを識別することが相応しい。地方的主導権の一つのレヴェル。全国的指導部に依存する別のレヴェル。スペインの共和派たちの救助にやってくるため、金、食糧、葉及び衣服を集めるのに当てられる機関の配置は、フランス共産党が、ピレネー・ゴリアンタール県において、チャンピオンを作られた、連帯へのアピールの実践的な局面として思い付かれた。同様に、フランス共産党の地方は、少なくとも一九三八年まで、カタルニャの県において組織された、公式に、色々な募金及び応募の主導権のもではなかった。確かに、共産党の地方は、一九三七年初めで、フランス人民救助隊になった、衛星のような組織、国際の赤色救助隊を自由にした。しかし、その地方の悪い定着は、救助隊を県のスケールの大きさの運動を準備するように可能にできなかった。行動的な支部の後の発展は、スペインで連帯の波の結果であった。スペインの共和派たちを救うため、一九三六年夏の間、発せられた、最初の大きな応募の成功は、とりわけ共産党の諸細胞の事業であった。しかしながら、フランス共産党の地方的指導者たちのため、共和的スペインへの援助は、別の反ファシズムの諸勢力で、統一された実践の外に考えられることはできなかった。人民戦線の具体的表現と同じぐらい、ピレネー・ゴリアンタール県のあらゆる左翼の勢力の共同行動は、人民連合に対して、内部の勢力諸関係が、一つのコミュニケーションから別のコミュニケーションまで変わる、必要であった。同様に、地域において、人民戦線委員会は、時折シエレのように、連帯を世話を引き受けた。一九三六年九月から、県の機関は、ペルピニャンの古い軍事的病院の市の建物において所在した、反ファシズムのスペイン革命防衛委員会を準備された。社会党員たち、そしてピヴェール主義者の活動家たちのグループ、共産党員たち、無政府主義者たち及び国際的赤色救助隊は、委員会に参加した。フランスの国境を横切って共和派の軍隊に対して、同時に、県の連帯を

活気づけるのを及び全国的、さらには国際的援助を到達させるのを仕事をする、雑種の組織、すなわち、スペイン革命防衛委員会は、一九三七年初めでスペインに生じた、共産党員たちと無政府主義者たちの間、断絶に抵抗しなかった。一月末から、カタルニャの労働者紙は、無政府主義者たちを仮借なく攻撃した。スペイン革命防衛委員会の委員会の出口は、フランスにこの分裂が、ピレネー・ゾリアンタル県において移住して来たスペイン人にあつては引き起こした、恐れを立ち向かわなければならなかった、フランス共産党のために正当化するのに困難であつた。一九三七年三月六日と七日、八人の共産党の代議士は、ピレネー・ゾリアンタル県において宣伝の巡回を實行した。この作戦は、フランス共産党が、カタルニャの県に及びスペインの諸事件に到らしめた、多数の利害のスペインの移住者たちを説得した。共産党の約束の影響力について安心させて、代議士たちは、無政府主義者たちの運命で不安でなかつた。五月三日、スペインで援助の新しい中央集権化の組織は、ベルビニャンで誕生した。フランス・スペインの連帯委員会。委員会は、三月初め配置された、人民連合連帯委員会、ピレネー・ゾリアンタル県人民救助隊、スペインの人民への援助の地方的委員会、反ファシズムのスペインの移民たちの連盟及びスペインの中心部を一つに集めた。この新しいグループにおいて、多数派は、共産党員たちのものであつた。フランス・スペインの連帯委員会の政治的意味は、明白であつた。無政府主義者たちを、統一された中央集権的な機関から除くこと。無政府主義者たち(ベルビニャンで、約四〇人)は、彼らの瓦解において引き連り込まれた。カタルニャの伝統のフェステイヴァルは、ピレネー・ゾリアンタル県の共和的スペインに対して、援助の組織についてフランス共産党の独占的支配の輝かしいデモであつた。ピレネー・ゾリアンタル県において、この状況は、先ず第一に、カタルニャ統一社会党 P.S.U.C. とスペイン共産党を援助するように共産党の意思から生じた。もしこの状況が、社会党に対して幾つかの軌む音を引き起こしたならば、結果は、状況を正当化することはできる。一九三七年一月から一九三八年二月まで、フランス・スペインの委員会は、一〇万八、七四八フランを集めたし、六つの牛乳のトラックを發送したし、一六トンの衣服、シガレット及び薬を移送した。その上に、ピレネー・ゾリアンタル県において居住

するスペインの義勇兵たちの一〇五の家族は、地方的委員会の及びフランススペインの人民戦線地区の救助を受け容れた。フランススペインの委員会の連盟の構造からピラミッドの型の構造まで移るのを企て、すなわち、地方的委員会は、一九三七年一〇月に配置され始めたし、一九三八年一月に約四〇であった。彼らの先頭に同等で、三人のフランス人たちと三人のスペインの移住者たちを結び付ける、地方的委員会は、人民移住の環境において共産党の優勢の影響力を考慮に入れて、スペイン共和国に対して援助の組織の全体について、共産党の管理の理想的道具を構成した。一九三八年二月から、この主導権は、無政府主義者たち及びペルピニャンの新しい社会党の市長が、再び見出した、反ファシズム国際的連帯委員会の設立で、痛烈に打撃を与えられた。フランス共産党は、救助の募金において直接の約束に結び付けられた、戦術上の後退を行った。フランススペインの委員会をほったらかして、カタルニャの労働者紙は、ペルピニャン・フイゲールの後援委員会の設立を要請したし、人民連合のスペインの人民で連帯委員会の本質的役割を強調した。同時に、フランス共産党の地方局は、スペインに一五トンの食糧の發送のため、応募を發するのを決定した。初めて、共産党は、自分が主導権であることを願った。平行して、地方局は、社会黨員たちに対して、反ファシズム国際的連帯委員会と縁を切るのを要求した。この連帯の危機は、スペインの共和派たちへの援助が、国境で知らなかった至上命令であった、人々を深く混乱させた。コミニケにおいて、言葉は、編集によって強調された。フランススペインの委員会は、フランススペインの委員会の、スペイン革命防衛委員会の、スペインへの援助婦人委員会の、及びスペインセンターの林間学校の責任者たちが、協力の憲章を受け入れるのを決定したことを通知した。スペインで援助の組織のこの統一は、共産党によって要求された統一ではなかった。スペインの紛争の最後の七か月の間、フランス共産党の及び近い組織の活動家たちは、スペイン共和国に対して、援助のキャンペーンを活気づけるのに続けた。フランス共産党の募金は、人民の連帯以上に、党の連帯の表現であった。無政府主義者たちと別の『トロツキー主義者たち』で協力するのを拒否で同様に、フランス共産党のこの閉じ込めること（萎縮）は、人民戦線の末期に、党の非合法の局面によって、スベ

ンを考慮して、党の行動において、絶えずふさがった役割で証明した。

**合法性と非合法状態の間に** 民族主義者たちによって、フランススペインの国境の西の部分の管理の占領は、紛争の初めから、ピレネー・ゾリアンタール県から、陸上の道によって、政府の機関への到着する、人間たち及び機器を義務を負った通過点を作った。共和的スペインの緑地、すなわち、緑地は、地中海に沿った、鉄道の道を通すのを重い機器への可能性を供給した。自動車車に関して、車は、これら二つの国境の部署によって加えて、アレーヌ峠の部署によって無料で通過することはできた。従って、ピレネー・ゾリアンタール県によって獲得された、戦略上の重要性は、フランス共産党の全国的指導部を、機関を配置するように仕向けた。干渉の二つの大きな領域は、境界を定められた。軍隊に做った（自動車とトラック）と軍事的機会で（武器と弾薬）機器の護衛。共和的陣営の方に義勇兵たちの歓待と通過。これら二つの部門の組織は、センターから派遣員たち（AIIマルティラ）の管理の下に、ピレネー・ゾリアンタール県の共産党の地方の自由に処分し得る活動家たちに対して、預けられた。

**スペインのためにトラックを、武器を** 不干渉の早熟は、戦略上の機器の通過の組織で準備完了の早熟を引き起こした。その機器は、パリの地方あるいは大西洋の港の出所で、ピレネー・ゾリアンタール県において列をなして到着した、救助の責任を負った、自動車の車でできていた。概して、車の列は、ミラスによって免税で通過した。そこで、広々とした倉庫において、車は、検査された、ピレネー・ゾリアンタール県において作られた募金の成果を補充された、積荷の職業のように車の職業を受理された。車は、当時スペインに割当てられた、目的について道路を行った。国境の通過の手続きは、時間の大部分、AIIジャンドルによって完全に実現された。国境が乗り越えられて、車の列は、AIIジャンドル自身の責任の下に、列の最後の目的を獲得した。全国的指導部の派遣員たちは、共産党によって管理された市当局において、機器の再編成のセンターを設備するのを必要に加えて、案内された。PIIテラの身近な、AIIジャンドルは、党の地方的指導部とAIIジャンドルが先頭に立った、組織の間、完全な協力の保証であった。しっかりとした人、ミラスの助役は、

精力で溢れた、そして、国境で免税通過貨物取次ぎ業者たちと税関吏たちを押し除けた。運転手たちは、直接に車の列の指導者の責任の下にあった。この鍵たる部署に対して、政治的に信頼できる人間が必要であった。多分、AIIマルティの提案について、センターの選択は、EIIダルデンヌに向けられた。地方的委員会のメンバー、リヴザルト地区の書記及び彼の職業の運転手、EIIダルデンヌは、当時手が空いていた。彼は、ためらわずに、スペインにミラスの車の列の指導を保証するのを申し出を受け入れた。彼の三五歳の力において、この活動家は、税関吏たちに直面して、確かさでしつかりした良識を結び付けた。一九三六年秋から、ミラスのセンターは、満足したやり方で働いた。しかし、もし、一九三七年二月まで、緩和された不干渉は、その結果、ごく僅かの問題が、フランス側の国境の乗り越えること(通過)の時、提起されたならば、スペインの側で同様ではなかった、実際、一九三七年五月まで、スペインに入国の管理は、車の列を非常にこせこせした手続きに従わせた、全国労働組合連合の「Z」及びベリアアナーキスト連合「A」の無政府主義者たちの手中に留まった。状況が、共産党員たちと無政府主義者たちの間、スペインに緊張したにつれて、国境を乗り越えることは、ミラスのセンターから出所で、トラックに対してもっと困難になった。同様に、四月末、中央政府の襲撃隊たちによって国境地帯の占拠、次いでバルセロナで五月の諸事件及び共産党員たちに考慮して、カタルニャ統一社会党「C」の諸事件の結論は、スペインの方に救助の通過のフランスの共産党責任者たちを、喜びから満足させた。一九三七年二月二日から六月二三日まで、国際的観察者たちの国境についての配置は、しかしながら、事態を複雑にするようになった。車の列は、動けなくさせた、さらには、道を引き返さすはずであった。今後、軍事的に適した機器の発送は、国境の隙間の時期に依存した。市民の機器のように考えられた、トラックの及び車の発送は、続いた。その理由は、共和的スペインで経済諸関係は、決して中断されなかった。いづれにせよ、いわゆる武器の輸送は、事実である。輸送は、その責任者たちの告白から、ミラスのセンターから重要ではなかった。実際、重い機器は、税関の鉛印の下に、鉄道を通ったし、機器の発送は、全体的にAIIジャンドルの組織を免れた。その組織は、しかしながら、ガソリンの樽の内に包み隠された、車

と弾薬、本質的に葉莖の天井において、カタルニャ統一社会党とスペイン共産党の義勇兵たちの目的として、軽い武器、小銃及びピストルを通した。輸送の機器の免税通過センターのこれらの本質的な機能に対して及び軽い武装の控え目な機能に対して、ミラスは、国境の一つの側から別の側まで往来した、フランス人の及びスペイン人の多数派の中で、共産党の責任者たちにとって、中心の機能を付け加わった。全部は、A II ジャンドルによって保持された宿等を見出した。そこで、フランソワ・ビユ、A II マルティ、M II トレーズ、ドロレス・スイバルイ等は、互いに交差した。フランス共産党の、さらにはコミンテルンの指導部とミラスのグループの間、これらの頻繁な接触は、党の効果の保証であった。それは、共和的軍隊を勝手に使うまで来た、義勇兵たちが、利用した、すべての別の手続きである。

— **義勇兵たちの通過** 出発に対して、スペインに入国は、すべての人に対して自由であった。そして、一九三六年七月から、数一〇〇の義勇兵たち（大部分スペイン人たちは、全部の列車あるいは車によって現れた。八月から、ピレネー II ギリアンタール県は、ある人々が無政府主義の構成単位を接合するため、大部分が国際旅団を接合するため、スペインを到達するのを探す、国際的活動家たちの正規の殺到を知っていた。アルバセーテで駐屯させて、国際旅団は、A II マルティの責任の下で置かれた。もしあるスペインのあるいは国際的義勇兵たちが、ペルピニャンで停車することなく国境を横切ったならば、ルシヨンの首都において到着した、義勇兵たちの数一、〇〇〇人のため、同様ではなかった。人民軍の義勇兵たちに対して、次いで一〇月から国際旅団に対して、義勇兵たちの歓待と出発は、共産党が、世話を引き受けた、任務の一つになった。疑いもなく、事務所は、出発の際、反ファシズム II ス페인革命防衛委員会の内部に、無政府主義者たちで分割されるはずであった。しかし、事務所は、義勇兵たちの全体のほんの僅かの免税通過を心配した。小さいグループは、テラ等を周りに構成された。ペルピニャンで到着する義勇兵たちは、古い軍事的病院に赴いた。そこで到着して、義勇兵たちは、グループのメンバーたちによって世話を引き受けられた。国境の警察は、だまされやすいことはなかった、しかし自由放任した。すべての国籍の二、〇〇〇人（スペイン人たちの大部分）は、努力の目的、共和的ス

ペインを到達するのを、Pllテラによって活気づけられた小さなグループの努力に負うていた。一九三七年二月二〇日、発効された、スペインの共和軍において仕えるため、義勇兵たちの募集の、発送の及び免税通過の禁止は、党の全国的指導部を、彼らの進行に対して、装置を再考するように仕向けた。いずれにせよ、スペインの方へ義勇兵たちの通過を保証することは、事実であった。最も確実な道は、ピレネーゾリアンタル県の道に留まった。海岸の道は、単に利用された。従って、越境手引き人たちの組織を準備する必要となった。一九三七年の最初の数か月において、全国的指導部の派遣員は、フランス共産党の地方的委員会のメンバーとリヴザルトの労働取引所の書記、リヴザルト人Allラコスト André Lacoste と連絡を取った。彼は、一九三八年初めで、建物等の労働者たちの第三二番目の連盟地方の常駐書記になるはずであった。ためらわずに、人々が彼(三〇歳)を提案した、役割を受け入れたので、彼は、間もなく越境手引き人たちの有効な組織網の先頭にいた。義勇兵たちは、長距離バスでベジエを離れた。そこで、彼らは、通過の地方的組織によって世話を引き受けられた。国境の乗り越えることは、支障なく実行した。しかしながら、同じ地帯によって通過の余りにも大きな頻発は、その結果、手続きの瓦解を引き起こした。全部で、数一〇〇の義勇兵たち(大部分外国人たち)は、カタルニャの共産党の活動家たちの献身のお陰で、しかし同様に、緩和された不干渉の時期の間、警察軍の中立性のお陰で、従ってスペインに到達した。一九三六年八月から、共和的スペインに碎け散った、義勇兵たちの波において、ピレネーゾリアンタル県の役割は、重要ではなかった。約二〇人のフランスのカタルニャ人たちは、国際旅団において掛かり合った。人々は、単に国際旅団を接合したように、ピレネーゾリアンタル県の一七人の活動家たちを見付ける(ジャンメトロン)。彼らの間、一人の社会黨員と一六人の共産黨員たち。彼らは、党の直接の約束と同様に、共産主義青年同盟の約束を代表した。完全に、スペインの国籍のフランス共産党のメンバーたちについて、地方によって観察された態度は、違っていた。全国的指導部の明白な要求に対して、スペインの活動家たちは、共和的義勇兵たちを勝手に使わせるように招待させた。一九三八年初め、一〇五人のスペイン人たちは、フランススペインの人民戦線県委員会の救



助を受け取った。ピレネー・ゾリアンタル県において、二二、三八四人の常駐の居留民たち。動員が、スペインに布告された時、フランス共産党は、動員をスペインの国籍の党の活動家たちを尊重させるように負担させたし、人々の追放に執行した、あるいは見捨てた。

**スペインの果実** スペインの戦争は、ピレネー・ゾリアンタル県においてフランス共産党に対して、人民たちの主義主張に対して党の活動家たちの献身の示威行動を作るのを好機であった。共産黨員たちは、カタルニャ間の連帯の綱のよように、『国際的プロレタリアの』連帯の綱を感動させることはできた。スペインで援助のテーマを周りに、彼らは、多数の善意の人々を集めた。スペイン共和国を考慮して人民戦線の諸党の統一された行動を要求するのに、彼らの固執は、カタルニャの左翼において確実な反響を及ぼした。しかしながら、スペインの周りに統一された言説は、単にもっと大きな統一された言説の変形であったことを注目するのは、相応しい。疑いもなく、一九三七年と一九三八年にピレネー・ゾリアンタル県において、共産党と近い諸組織、特に共産主義青年同盟の組織が知っていた、発展は、共和的スペインに対して援助の具体的な行動に非常に負っている。スペインの戦争の到る所で、発展は、人民連合の最も首尾一貫した党として現れることはできた。ピレネー・ゾリアンタル県の国境の立場によって命じられた、フランス共産党のカタルニャの地方のスペイン共和国の側で、約束の激しさは、利点だけでは引き起こさなかった。Pllテラにとって、激しさは、最初の結果として、最も行動的な活動家たちに対して、労働の著しい増大を及ぼした。地方的指導部の任務の鈍化は、センターの派遣員たちが、地方に対して供給した、援助によって単に埋め合わせた。そして、ペルピニャンで無関心なバリの活動家、Pllオル Paul Holl は、一九三七年春から、共産党の諸組織のレヴェルで、スペインで援助の公式の行動の全体を調整したし、義勇兵たちの発送に対して多分参加したように見える。一九三八年五月一八日、ドリオ主義の下に追放された、彼は、取り替えられなかった。幹部たちの過剰を持たなかった、そして定員数が、充分に増大していた、地方にとって、共和的スペインで、物質的及び精神的連帯の組織は、細胞の政治的生活の欠如によって、そして一九三七年から、支部に

なつた、地区の事務局の中間の責任者たち、書記たち及びメンバーたちの不十分な形成によって、しばしば表現された。疑いもなく、人民戦線を考慮して、組織の行動は、共産党を成熟にあらゆる成果を仕向けるのを妨げた。しかし、その組織は、党から、寛容、献身及び統一された意思が、混じつた、イメージを与えた。一九三八年の真中まで、人民戦線の発展によって提起された色々な内部の問題に直面する、フランス共産党のカタルニャの地方が、採択した、行動の路線は、以前の社会運動の全体の相続人、すなわち、フランス共産党のこのイメージを洗練させた。<sup>(四)</sup>

**経済的な困難及び経営者の攻勢に反対して** もし戦争のうんざりさせた激しい物音が、カタルニャの共産党の活動家たちの心を膨らせたならば、物音は、活動家たちを、活動家たちが、人民戦線の勝利の時、経済的及び社会的レヴェルについて育んだ、希望の急速な悪化を少しも隠さなかつた。一九三六年一〇月から、フランス共産党の大きな損害で実行された、フランの平価切り下げは、六月に手を入れられた賃金の値上げを少しづつ減らし始めた。ピレネー・ゾリアンタール県において、生活費の指数の続く値上がり指数は、一九三〇年に一〇〇のベースに対して、一九三六年一月に九二・二から一九三九年二月に一一六・七まで移つた、は、産業において、一九三六年の賃金に反比例して、埋め合わせられた。一九三六年一〇月から一九三七年一〇月まで、物価の値上げが、一八%の周りを回つたのに、印刷労働者たちの労働時間の値上げは、単に五%だけであつた。しかし、石工労働者たちにとって二〇%だけで及び労務労働者たちと土木作業員労働者たちにとって二五%だけであつた。その代わりに、賃金の増額は、同じ時期に対して、農業労働者たちにあつては、一〇%のレヴェルのもつと適当なものであつた。これらの平均的な数字は、物価と賃金の遅い適合の運動の、しかし注目すべき経営者の反撃によってマークされて、社会闘争の時期の表現ではない。辛うじて、一九三六年夏の間、署名された色々な協定のインクを乾かして、経営者の一部分は、協定を再び問題視した、あるいは適合を延ばすように努力した。急進的労働組合主義者の活動家たちの解雇、工場閉鎖の企て、濫用になる解雇、六月に署名された団体協約を適用するのを拒否あるいは職員代表たちの選挙のいんちきは、経営者によって、彼の職員の手にも再開の同じ位の企てを構成した。激

しい社会的紛争は、次々と続いた。労働者たちは、彼らの使用者たちを、夏の征服について戻るままにして置く気分になつていかなかった。一九三六年秋から冬まで、一〇のストは、労働者の要求に対して満足を与えた。一九三七年に展開した、幾つかの二〇のストから、結果は、多様であった。もし建物の労働者たちが、幾つかのストの後、一九三七年一〇月に、彼らの賃金の一五%の平均的な引き上げを手に入れたならば、冶金の労働者たちは、一か月のストの後、目標のどれも到達しなかった。一九三八年は、紛争を、貧弱な結果として縦方向に到達するのを見た。二月二五日、約二〇人の労働者たちの解雇に反対して抗議するため、ベルビニヤンの部署の新しいホテルの建築の仕事場について、突如開始されたストは、四月二八日、失敗の確認によって結着した。この同じ二月二五日は、経営者の勝利に終わるはずであった、厳しい紛争を始めた、七月一八日から九月八日まで、リヴザルトの幼稚園の仕事場について、仕事の停止及び解雇が、八月一八日から一月一八日まで、次から次へと続いて相次いだ、ベルビニヤンでポン・サラングロの仕事場について、なお建物において、実は、一九三八年夏の最も厳しい社会運動は、起こった。しかし、一九三八年の最も重要な紛争は、主義主張のため、直接の経営者の攻撃に対処するのを必要を持っていなかった、しかし賃金の理由を持っていた。紛争は、一九三八年五月九日、ピレネー・ゾリアンタール県の土地の労働者たちの労働総同盟系労働組合とベルビニヤンとピレネー・ゾリアンタール県の所有者たちの労働組合の間、一九三七年八月に署名された団体協約によって支配されて、ピレネー・ゾリアンタール県の二一のコミューンにおいて爆発した。労働者たちは、二七フランから三二フランまで、賃金の再調整を要求した。三日から七日までのレヴエルの仕事の停止の後、協定は、一九フランと二リットルのぶどう酒の周りに作られた。もし人々は、ピレネー・ゾリアンタール県の別のコミューンにおいて、賃金が、毎日に二二フランと二五フランの間、変動したことを考えるならば、人々は、前払いを維持した、運動に対して、失敗で話すことはできない。二九フランが手に入れられて、並以下の結果と対照となす、異論のない成功、すなわち、ぶどう酒の相場は、構成した。開かれた紛争に対して作られた宣伝は、経営者の手に再開が、卑屈なやり方で作られたことを、われわれに包み隠さずがない。活動家た

ちの日刊紙は、職の拒否で、職員の偽善的縮小で、仕事の恒久的不安定で作られた。この経営者の戦略は、失業が、一九三五年と一九三六年に到達された数字の以下に安定するように見えるのに、失業が、一九三六年から一九三八年まで、重要な減少で知っていなかった程度において、ある有効で發揮されることはできた。物価の値上がりと職の意気消沈した状況は、実は農業の小所有者について影響であった。開墾の費用は、ぶどう酒の相場等よりもっと速く増大した。余波を受けて、小商業は、打撃を与えられた。

**人民戦線を救うため** この不確実な経済的及び社会的背景において、共産党は、外部の嵐を見失わないで、自分を人民戦線の生き残りであることを保証するのを、主要な目的と思わせた。そうすることによって、共産党は、三つの方向において党の努力をもたらしした。人民連合の非妥協的に反ファシズムの性格の再確認、連合の経済的及び社会的綱領の実現の緊急性、そしてこれらの目的に到達するため、最も十全な政治的手段の利用。

**Ⅰ反ファシズム** 人民戦線は、一九三四年二月六日から生まれた。反ファシズム闘争は、人民戦線の存在理由であった。カタルニャの労働者紙と共産党の地方の指導者たちは、指導者たちのパートナーたちに対して同様に住民に対して、人民戦線を想起させるように機会を失なかつた。スペインのテーマに結び付けられたテーマは、そのフランスの掛かり合いにおいて取り扱われたように見える。内乱を準備する、叛徒たちの告発は、共産党の週刊紙の欄において相次ぐ。反ファシズムのキャンペーンは、諸事件が、正しいと認めるといふように思われる時、強まる。ロジェールサラングロの死、クリシイの事件及び『カゲール団の陰謀』の発見は、強い時間を構成する。そのキャンペーンは、当時統一するように見えるし、民衆運動の色々な組織の接近に対して働くように見える。総選挙は、ピレネー・ゾリアンタール県において共産党の政治的表現の優越した瞬間を、譲歩なく、公に党の反ファシズムを再び確認するのを別の機会がある。共産党の立候補者たちの成功を見た、ベルビニャンで一九三七年六月の補充市町村議会議員選挙は、カタルニャの労働者紙に対して、『ベルビニャンのファシズムの完敗』である。一九三七年一〇月の県会議員選挙に対して、人民戦線から要求する、立候補者た

ちの勝利は、ファシズムの制圧のように体験される。一九三八年四月三日のシェレの選挙区において、補欠国民議會議員選挙に対して、立候補者、P II テラの政見発表は、党が、反ファシズム闘争に与えた、重要性を強調した。その宛て名は、従って作製された。『人民戦線綱領の完全な適用のために。フランス人の暗殺者たち、カゲール団の見せしめになる非難のために、ファシスト諸団体の武装解除と有効な解散のために。ファシズムによって生成された、二重の内部の及び外部の危険を克服するために同様に、一九三六年五月に企てられた、社会的及び政治的進歩の事業の追跡を目標として、国民の聖たる諸勢力の再編成のために。』この反ファシズムの前提条件を提起されて、立候補者の経済的及び社会的綱領を説明する、五頁は、結果として生じた。当時ピレネー・ソリアンタール県において共産党の宣伝によって、取られた動向のこの象徴的な不均衡は、同時に、この問題について共産党員たち、社会党員たち及びある急進党員たちの間に存在した、合意、及び県の全体において、極右の諸組織の弱い定着を表した。

— **綱領に対する忠実さ** — 重大な困難を知り始めた、人々に対して、展望を開くこと、人民連合をしつかり固定するため、正確な経済的目標について、共産党の周りに人々を集めることは、カタルニャの共産党員たちの経済的及び社会的行動の大きな路線であった。最初のこの戦術の中心に、人民戦線に対する忠実さ。人民戦線綱領に対する忠実さ。『人民戦線綱領に対する忠実さ』は、一九三六年十一月七日のカタルニャの労働者紙において、P II テラを宣言する。一九三七年七月三十一日の九か月後、彼は、『綱領を実現するため、人民戦線の連合を』要請しながら、過失を繰り返す。一方、一九三七年九月一八日、L II ロックは、『綱領を適用する必要がある、しかし、共産党は、ブレレーキの支持者、追加条項の支持者ではない』とはっきり述べる。リールで急進大会の後、一九三七年十一月六日のカタルニャの労働者紙において、P II テラは、『それは、重要である、綱領ではない、しかし、綱領の実現である』という、さらに値上がりした、次いで、『人民戦線によってすべてを。人民戦線のためにすべてを。』という、共産党の見解を要約する。

**結び付けること** 一九三六年五月の勝利を可能にした、協定の尊重の特徴の下に、党の行動を置く、共産党は、安定化

の時期において入った。危機の犠牲者たちを必ず表現した、社会的要求を責任を引き受けながら、党の統一されたイメージに対して忠実なままであった。共産党は、労働者の苦情のスポークスマンであるのを留めなかつた、しかし、農民たち、小商人たち及び官公吏たちの不安に向かつて開いた。人民連合の色々な可能な構成要素を結び付けるように、この意思は、年老いた労働者たちの退職の問題の周りに、注目すべき適切さで表現された。

一年老いた労働者たち 年の終わりに、政府が、人民戦線綱領において含まれたこの配列を利用するのを急を要しなかつたことを、共産党が確認された時、共産党は、社会的場について党の明白な得意の話題を作った。老人たちの退職のためのキャンペーンは、一九三七年五月末から、カタルニャの労働者紙の欄において、顕著な場所を占めた。一二月に、映画は、助けに來た。ペルピニャン等で、老人たちの退職を考慮して、さくらんぼの時間の映写は、人民戦線綱領のこの点に対して、住民を感動させるのに協力した。三月初め、共産党の代議士たちは、公の討論が、三月一〇日、年老いた労働者たちの退職について法案の直接の保証金のため、議会で組織されるように手を入れたのに、共産党の指導者たちの口調は、急を要して作られるし、感傷主義を嫌わない。シエレの補欠国民議會議員選挙のため、Pllテラの綱領の第一点、『フランスの男女老人たちのための退職』は、『すべて改革の間に人間的改革』として提出される。三月一〇日、第二次ブルム政府の公認は、後で、年老いた労働者たちの退職について法律の検討を否決した。ピレネーIIゾリアンタル県において、共産党は、党のパートナーたちをその件について党の立場に並ぶのに仕向けたように自負することはできた。シエレの補欠選挙で、社会党の及び急進党の立候補者たちは、老人たちの退職のしっかりした支持者たちを明確化する。しかしながら、一九三八年八月二八日、その大会で、共産党の責任者たちを招待する、年老いた労働者たちの県委員会は、間違わない。ピレネーIIゾリアンタル県において、共産党の指導者たち及び活動家たちは、カタルニャの共和的運動の伝統に一致したイメージを与えた。従って、社会黨員たち及び急進黨員たちは、単に追隨することはできた。相違は、選挙の波瀾のその先に、共産党の行動の一貫性によってなされた。

Ⅰ・・・労働者たち 労働者階級の党、共産党は、労働者の要求の最先端にある義務があった。労働総同盟の内に代表された、テラは、常に一九三七年に、総同盟の執行委員会に所在した。共産党は、路線に対して、当時直接に経営者とサラリーマンたちを置いた、スト及び多様な社会運動に対して無条件の支持を持っていた。一週間は、起こらなかった。一九三六年八月から一九三八年九月まで、約七〇の重要な論説は、サラリーマンたちの闘争及び問題を取り扱った。一九三六年夏の措置に帰すべき一時的沈静の後、ベルピニヤンの失業者委員会（ジリギセ）は、一九三七年三月に、その活動をまた始めた。週毎に、ジリギセは、カタルニヤの労働者紙において、失業者たちの年表を署名した。恒久的要求の根底について―大土木事業、老人たちの退職、手当金及び週四〇時間制―、彼は、希望と怒りを交替させた。一九三八年四月のPllテラの政見発表は、サラリーマンたちの方向で、共産党の綱領の立派なレジュメを提供する。一九三六年夏以来、幾つかの社会的紛争の舞台、シエレの選挙区は、この領域に、県の全体の代表的であった。地方的書記は、先ず第一に、産業労働者たちにとって、人民戦線の経験の強化を提案した。すなわち、『労働者階級によって獲得された利点の維持、四〇時間制の厳格な適用、サラリーマンたちの権利及び威厳の尊重、雇用及び解雇の規制。』経営者の反動を考慮に入れて、この戦略は、即座にもっと少なく防衛であった。企業毎に、ケースバイケースで適用されて、戦略は、同一視されたスローガンに基づいて、皆によって理解のあるものであった。新しい要求、給与及び賃金のスライド制の設立は、付け加わった。生活水準の維持の保証は、一九三六年一〇月の平価切り下げの後、現れた。人民戦線綱領において、予測されなかった配置は、綱領の厳格な適用のそのスローガンにもかかわらず、共産党は、党のパートナーたちが、足踏みしたのに、断念しなかったことを指示した。ピレネー・ソリアンタル県の多数の農業労働者の考慮に入れることは、Pllテラを、彼の綱領において、『農業労働者たちに対して、団体協約、社会保険及び労働基準法の尊重に関して、産業労働者たちによって獲得された利点の全体の拡大』を褒めそやす、特別の項目を記録するように仕向けた。失業に直面して、共産党の立候補者は、人民連合綱領に寄り掛かった。労働者及び農民の有用性の大土木工事の実現及び全国的失業資金の設立を要求して、

彼は、褒めそやされた措置の直接の昇移管化を強調した。この計画の進め方のお陰で、共産党は、色々な労働者の要求の行動に対して、全体の一貫性を与える能力のあるように思われた。労働組合の言うなりにならないで、ピレネーゾリアンタール県の指導者たち及び共産党の地方は、理論と実践の間に一連の往復運動を保証した。労働者階級にこの恵まれた関係が、共産党の存在理由であったので、別の社会的グループで党の諸関係は、小農については別として、最小の激しさを持つていたことは、少しも驚くべきではない。

Ⅰ・・・「中産諸階層」 PⅡテラの綱領の半分の路線は、「サラリーマンたちのために、社会法の適用」という、サラリーマンたちに関係があった。たとえ人々は、社会法が、シエレの選挙区において大きな数でなかったことを考えるとしても、社会法の重要性は、無視してよいどころではなかった。人々は、七、〇〇〇以上の労働力人口を代表した、グループに対してほとんど無関心を見出すように、社会党によって影響を受けた、この社会的集団に対して、共産党のある無関心を確認しなければならない。もし共産党が、官吏たちと公共事業のサラリーマンたちの高価な生活の補償金の要求を支持したならば、共産党は、この社会的集団の特別の問題に興味を抱いたように少しも見えない。疑いもなく、党が、細胞から自由になった、ある部門において、党は、党の活動家たちの内部の行動に当てにした。党は、ソ連邦友の会のように、近い組織の能力に頼ったように見える。小商人たちと職人たちについて、カタルニャの共産党員たちの態度は、完全に異なっていた。小商人たちと職人たちは、ピレネーゾリアンタール県において共産党の社会的基礎を構成した、労働者たちと小農民たちとの交際によって見付けられた。伝統的に、急進党員たち、小売店主たち及び職人たちにほど近い、意気消沈した経済的条件の「恵まれた」犠牲者たちは、税の負担を記入した、右翼の演説に注意深い耳を傾けた。同時に、フランス社会党あるいはフランス人民党の方に小売店と仕事場の漸次的移行のこの危険を妨害するため、人民戦線の社会的基礎を維持するため、共産党は、小商人たちと職人たちに話し掛けた。一九三七年一〇月の県会議員選挙の機会で、共産党員たちは、ピレネーゾリアンタール県において、中産諸階級の誘惑の真の企てを発した。全国的決定は、小商業、



職人と労働者階級の間に関連のテーマの周りに、つながった。一九三七年六月からP II テラによって表明された、共産党の立場は、幾つかの推進力となる考え（行動理念）に要約された。党は、小商業を打った、困難を承認した。困難を人民戦線の征服の結果に負わせるから遠くに、党は、困難を一九三六年秋以降、社会的進歩の停滞に結び付けた。もし小商人たちが、破産の直ぐ側にいたならば、過失は、労働者たちの購買力の低下に帰した。もし確認が、新しいものではなかったならば、サラリーマンたちで彼らの利害の共同体で、小商人たちと職人たちを説得するため、共産党によって展開された努力は、新しい事柄であった。地方の商人たち及び職人たちの利害を防衛するように、立候補者P II テラの厳粛な約束、一九三八年五月に、フランス共産党の地方的委員会の側に中小商業界委員会の形成は、この接近の企ての主要な段階であった。社会階層の方にこの党の開始は、一九三〇年代初めに、選挙民は党に似ていることはできた、ヴィジョン、そして党の活動家たちは社会に似ていた、ヴィジョンを変えるように貢献した。小商人たちと職人たちは、生産と交換手段の所有者たちとはいえ、共産党にとつて、労働者たちになつた。同様に、共産党員たちは、共通の権利が、賃金を受ける労働者たちに対して適用された、及び労働者たちが、職のないサラリーマンたちに対して、支給された貧弱な補償金の恩恵を受けるように正当と認められたように、要求するように仕向けられた。

『労働者農民たち』 共産党の行動分野の拡大のこの背景において、党の創設以来、党の周りに構成された古い同盟、小所有者たちと農業労働者たちは、党の役割を確認されたように見えた。党の多数の農村細胞の、党の市町村の立場の及び党の農民の活動家たち、分割地所有者たちの強い、フランス共産党のカタルニャの地方は、小農民の生活の諸条件について再生された注意に興味を抱いた。二重の不安は、党の行動を案内するはずであった。農業労働者たちと小所有者たちは、お互いに立ち上ることを妨げること及び大所有者たちで統一された行動の誘惑に抗し切れなくならないで、小農民たちを時間の困難に対して共同戦線を呈示するため、一団となるように仕向けること。オード県あるいはエロー県におけるよりもっと大きな農業的活動の多様性は、ピレネー・ゾリアンタール県の共産党員たちを土地の問題の複雑なアプロ

ちに導いた。土地から、人々は、小経営者たちの全体のため、ある数の有効な立場を救出することができる。『小農民たちの不幸を結び付けることはできること、等』は、小農民たちの方向に共産党の宣伝の鍵である。もし党が、マークされた階級的性格のグループ、すなわち、労働者農民総同盟の支部あるいは農民防衛委員会を優遇するならば、党は、確固として、協同組合制、すなわち、利害の共同体の自覚の第一の段階を主張する。農民たちを組織するのに困難の前に、農民たちが、共産党の活動家たちであった時ですら、共産党の地方的組織は、直接に農民の要求を責任を引き受けた、しかし農民の要求を、協同の運動を強固にするため、可能にした。共産党の活動家たちは、到る所で協同組合の生活へ参加した。そのように、実践において、一九三八年初めで、『協同のぶどう酒の立派な働きに絶えず心を配る等』という、LIIロックによって再生されたスローガンは、実現した。一九三〇年代初めで、協同組合について、共産党によって養われた先入観は、思い出の外にはもはや存在していなかった。小農民たちの組織に参加させることは、共産党に対して、必要であった。しかし、それは、ピレネーIIゾリアンタール県の生産の色々な型に対して、一般的及び特殊的局面は、はっきりと定義された、内容の、綱領の外に作られることはできなかった。何度も繰り返えて、地方的通信のあるいは『農民の防衛のため』という標題を付けられた通信の枠内において、カタルニャの労働者紙は、共産党の見解を説明した。共産党の見解は、網羅的なやり方で、PIIテラの綱領において及びアルル大会の後、ミラスで一九三八年一月九日集められた、地方的委員会の前で、LIIロックによって農民たちの状況について作られた報告において、取り扱われた。ぶどう酒の市場の問題は、ぶどう栽培の南部の別の県において同様に、共産党員たちの反省の中心にあった。ぶどう酒の売行き不振は、真の災害の規模が大きくなった、一九三〇年から一九三六年まで暗い年月の後、一九三六年の並以下の収穫とぶどう栽培の地位の適用の結果は、一九三〇年代初めで、ヘクトリットル度は、一九三六年、一九三七年と一九三八年に対して、八フラン、さらには五フランから、平均して一五フランまで移った、相場を立て直すように可能にした。同様に、共産党員たちは、生産過剰の場合に、蒸留の措置は、大所有者たちによって支えられたことを賛成しながら、ぶどう栽培の地位に対

して、彼らの支持を強調した。ぶどう栽培の地位に対して共産党の支持は、無条件ではなかった、そして党の改良を暗に意味した。結局、もし共産党員たちが、大土地所有者に直面して、警戒怠りないままであるように要求したならば、彼らは、L・ロックの言回し自体に依れば、『ぶどう栽培者たちの状況は、際立って改良したこと』を確認した。野菜栽培業者たちの状況は、同じではなかった。野菜の及び果樹の栽培は、一九三〇年代初めで、ぶどう園の困難が、なお強調した、一九二〇年代終わり、重要な膨張を知っていた。しかし、これらの栽培は、市場の危険の経験をした。小ぶどう栽培者たちの実例から出発して、共産党員たちは、買物をする人々の提案に対して共同の決議を提供するため、小ぶどう栽培者たちを一団となるのを説得するように試みた。ぶどう栽培者たちの、野菜栽培業者たち等の特別の諸問題について、共産党の態度の決定を横切つて、農民の体験の現実の事物で、ピレネー・ゾリアンタール県において密着している、共産党の農業綱領は、はつきりする。中小地主の維持に根拠のある、共産党は、中小農民たちの能力に対して、大所有者たちに直面して、農民たちの固有の利害を防衛するため、党の未来を一団になるのに結び付けた。そのように、その結果、小農民と労働者階級の間、マルクスによつて褒めそやされた及びカタルニャのゲード主義的特徴的な同盟は、しっかり確認された。資本主義の論理は、規範になった、経済的に複雑な社会において、虐げられた諸階級の間に関連して作られた、別の論理は、国家の援助なしに展開することはできなかった。同様に、共産党は、二つのレヴェルで党の干渉を要求した。先ず第一に、人民戦線綱領に合致して、職業を組織する手筈を整える及び職業を投機的な態度から守ることは、問題であった。その上に、共産党は、この活動の型に対して固有な危険を考慮に入れるように、農業の災害に対して全国的金庫の設立を要求した。従つて、空の雷で及び供給と需要の法則で保護された、農民は、農民を所有者たちの自由裁量から避難されるのに留めた。この危険を、実は、一九三八年に、上院は、少しも投票するように急がなかった、文化的所有権について法律は、収拾するはずであった。今後、別の労働者たちで平等の尺度に、農民は、社会に関して、共産党の考えの根底を作つた、共通の地位を適用するのに見られたようであった。国家は、家族の手当金の利益に対して、小農民たち、小作人たち

と分益小作人たちを承認する、彼らの相続人たちに対して彼らの財産を遺贈した、年老いた農民たちに対して、年老いた労働者たちの退職を与える、訴追及び差し押さえを停止する、そして小経営者たちの負債を手直しするはずであった。この綱領は、カタルニヤの労働者紙において詳しく述べられた。心配、一九三八年一月に、Lロックによって発せられたアピールは、小農民たちと労働者たちの同盟の戦略に対して、ピレネーゾリアンタール県の共産党の地方の愛着を表す、しかし、農民の環境に、党の近い大衆的運動を定着させるため、ピレネーゾリアンタール県において作られた企ての失敗を表す。

**野望のために手段から、綱領のその先に？** 労働者たちから農民たちまで、商人たち、職人たち、官吏たちを通りながら、共産党は、社会的分野の全体を押し付けた。人民戦線綱領に基づいて、共産党は、党の反ファシズムの有用性のその先に、党をフランスの現実において定着した、及び党を初めて一九二〇年代以来、信頼性の重力を再び与えた、戦術から、戦略を作ることができた。信頼性の重力が、完全になったために、党が提出した、誘惑する計画は、計画を根拠を与えた、融資を受け取ることができたように必要となった。共産党員たちにとって、手段の問題は、単純であった。手段の問題は、『金持ちたちは、支払う義務がある』という、フランの平価切り下げを通知する、一九三六年一月三日のカタルニヤの労働者紙の第一頁を線を引いた、見出しに要約された。それに反対して、人民戦線綱領から外に出るよう問題ではなく、その第二部（経済部諸要求）の第三項目（財政的健全化）は、政府が、まじめに党を適用することを考えさせずれば、共産党に対して、完全な満足を与えた。項目は、『大きな財産に到達する措置によって、資源の設立』を予知した。共産党が、政府の最初の財政的困難から、一〇〇万以上のフランの財産について、三％から二五％まで、累進的先取りを制定する法律の提案の、そして、一〇万フランより上の所得について、一％から四％まで、特別税の形態の下に、正確な表現を急いで与えた、算定されなかった意図の宣言。二つの措置の予知された関係は、それぞれ、一五〇億フランと二〇億フランであったし、勇敢な社会政策は、予算の赤字なしに、可能になった。人民戦線の財政的綱領を実現するた

め、共産党が、提案した、そして共産党が、ピレネー・ゾリアンタル県において党の出版物によって知らせた。手段は、共産、社会及び急進諸党によって署名された協定は、問題視しなかったことを含んだ。人民戦線の目標の追い越しを含むように考えられた、財政的領域において、共産党の提案は、カタルニャの社会黨員たちによって反撃された。共産党のこの真の経済的及び社会的綱領の実在は、党自身について党の内省の徴しのように取られるべきではない。実在は、反対に、当時の党の大きな政治的計画の最小の物質的基礎を構成した。民衆運動の強化とプロレタリアート統一党の設定。

**政治的に人民戦線を拡大すること** 一九三八年初めから、共産党は、党のパートナーたちで接近について、党の政治的行動を集中した。急進黨員たちと社会黨員たちを不安にした、アルル大会に対して、更生された動向、すなわち、キリスト教徒たちに差し伸べられた手は、ピレネー・ゾリアンタル県において、共産党の同盟で、制限する解釈を受け取った。一九三八年一月二〇日、E・ダルデンヌは、リヴザルトで公の集会において、この事件に『彼らを教会（人民の阿片）から外らせるように、カトリック教の労働者たちの側に繰り広げるように、そして彼らが、諸労働組合と左翼の諸党を接合するように作るように、宣伝を』主張した。左翼の陣営を締め直すことは、ピレネー・ゾリアンタル県の共産黨員たちが、当時はつきりと思いつくように可能であったことを、単なる政治的目標であった。固有な構造、すなわち、人民戦線地方及び県委員会から、人民連合を組織することは、地方が固定した、目的の一つに留まった。この領域において、結果は、貧弱であった。人民戦線県委員会は、もし幾人かの人たちが、一九三六年夏まで創られた人々に付け加わるのによつて来たならば、地方的委員会に関して、非常に頻繁な集会を持っていたとは見えない。地方的委員会は、活動からあふれないことは、確認しなければならない。もし三月八日、全国的レヴェルで、第二次ブルム内閣の展望によつて、そして地方的レヴェルで、シエレの補充選挙によつて、県において創られた、左翼の諸勢力の動員の雰囲気において、人民戦線県委員会が、再編成したならば、ダラディエ政府の成立は、見出された熱狂を速くまた倒れさせた。この背景において、共産党によつて強く勧められた、人民戦線県大会の集会は、単に希望のレヴェルの所轄であつたし、辛うじて実行の始まり

を持つていたであろう。

―急進党員たちに差し伸べられた手 民衆運動の眞の組織に対する主な障害物は、組織の参加に対して急進党によって置かれた、悪意によって構成された。実例は、上部組織からやって来た。一九三七年六月二日、ブルム内閣の辞職を後悔しながら、シヨータン政府を支えて、共産党は、なお人民戦線に留まった、虫の息を維持するように努力した。そして、それは、急進党の影響力を経験した。一九三七年七月一四日、ベルビニャンで大きな連合は、共産党員たち、社会党員たち及び急進党員たちの分派を集めた。共産党の構成要素が支配した、群衆の熱狂において、人々は、全部に対して部分を取る振りをした。八月に、共産党が、大きな広告を与えた、補充選挙に対して、細胞は、立候補を取り下げなかった、社会党員たちに反対して、先頭に到着した、そして人民戦線の目標を防衛するように掛かり合った、急進党員の立候補者たちを支持した。ベルビニャンで及びミラスで、急進党員の立候補者たちを、先頭に到着した共産党員たちに反対して、立候補を取り下げないように来た、一九三七年一〇月の県会議員選挙は、共産党を党の立場を再検討する義務を負わせた。善意の幾つかの急進党員たちは、目立たない敵意が、共産党に対して、明白であった、何時までも、代表者として、急進党を考察されることはできなかった。同様に、急進党に対して、手を差し伸べるように継続しながら、共産党員は、彼らが、公に遺産を要求した、共和的伝統において記録しながら、指導者たちの先頭の上に、集団に対して訴えた。人民戦線を拡大するように、さらには、急進党員たちが、一九三八年一〇月に、断念するはずであった、外観のその先に連合を維持するように、不可能性は、共産党を社会党で組織的な統一の実現において、新しい力学を探し求めるのに駆り立てた。

―不可能な岸、組織的な統一 一九三七年一月三日、第三回地方的協議会の後で採択された決議において、実は、組織的な統一のスローガンは、発せられる。従って、スローガンは、カタルニャの労働者紙の欄において、重要な場所を占めるように続けた。一月末で及び四月に取り戻された、スローガンは、これらの二つの村において、統一された運動の最先端に、具体的な結果を持つている。二つの党は、共通の集会を開催する。同時に共産主義青年同盟―社会主義青年同盟の

調整委員会は、二つの村で準備させる。これらの最初の成功は、共産党に対して、一九三七年五月一日、カタルニャの労働者紙の第一頁に、『カタルニャの社会党員たち及び共産党員たちは、労働者階級の単独の党に対して、統一されて働く』という、見出しの下に、統一への大きなアピールを発するように認める。マルセイユで社会党大会(第三四回全国大会、一九三七年七月一〇日から一三日まで)の直後に、アピールは急を要して作られる。『単にスペインのカタルニャに同様に単独の労働者党を形成するため、』活動家たちを『社会及び共産諸党を結び付けるのに働くように』勧める、マルテイから、モンルイユの中央委員会の議決の間、労働者階級の統一党の設定を思い起こす、P II テラまで、地方的共産党の指導者たちは、八月一日、共産党の地方的お祭りの時、彼らが、熱烈に喝采させる、統一のメロデーを音頭を取る。圧力に対して敏感な、社会党員たちは、共産党の要求に対して、八月一〇日、社会党―共産党の協商委員会を集めるように受け入れる。そこで、彼らは、全国統一委員会が、彼らの仕事を活気づけることを要求する、共通の決議を署名する。L II ロックは、八月二八日、統一党が、作られるだろうということを書いた。しかし、八月二九日、翌日に開催された地方的情報協議会で、テラは、もし統一党が、作られるはずであったならば、それは、社会党の抵抗にもかかわらず、局地的になるであろうことは、確認するはずであった。ある緊張は、スペインに共産党員たちの行動について、二つの党の間、当時作られる。そして、県会議員選挙の準備は、統一されたテーゼの発展に好都合ではない。しかし、全国的レヴェルで、社会党が、恐れを知らぬ統一委員会の交渉を断ち切る時、L II ロックは、『統一、統一』という、返事する。そして、二月五日、集められた、第四回地方的協議会は、直ぐ前の協議会と同様、統一党の実現を要求する。疑いもなく、経営者の反撃のように、スペインに状況の統一に対する執着した選挙民に直面して、シエレの補欠選挙の直前に、社会党は、共産党の立場と関係がある。一九三八年一月一日、統一県委員会は、社会党の事務局に集まるし、統一党を考慮して意思表示される。一月二〇日、共産主義青年同盟―社会主義青年同盟の連絡県委員会は、その順番に集まる。一九三八年春と夏の間、共産党の諸組織は、社会党の上部組織の及び下部組織の方向で、真の統一された猛攻をする。もし社会党の諸支

部の解雇の企てが、長続きするならば、圧力は、社会党の連盟が、一九三八年六月一〇日、共産党の要求に対して、人民戦線大会の原則を受け入れるため、充分に強い。しかし、この譲歩について、社会党の連盟の全国的決定機関によって叱責された、圧力は、間もなく戻るはずである。ピレネーゾリアンタール県において、社会党の統一された偏流に対する厳しい一撃は、パリから来た。社会主義青年同盟のグループは、共産主義青年同盟のサークルですべての関係を断ち切った。遅れを取った瞬間、社会党は、自分を取り戻す。一九三八年七月二七日、行動統一協定の第四回記念日とジョーレスの報告書を敬意を表する、統一された集会は、統一党に対する集会ではない。国の残りにおいて同様に、カタルニャの県において、統一党は、作られないであろう。

**疲れを知らない結集者のイメージ** 二年間、共産党は、ピレネーゾリアンタール県において、民衆的統一の外観を維持しようとした。ファシズムの恐れから及びより良い未来に関して希望から生まれた、団結の崩壊を避けるため、共産党は、綱領を実現し見えるため、何らかの利害を持つことができた、すべての人々を倦むことなく集めるように努力した。党の目標を定義する、党の内容を明確化して、共産党は、民衆的圧力の機会に演じながら、党のパートナーたちを党を実現することを、及び従って経営者の反撃を対立することを勧めるために、党のパートナーたちを決断を迫り続けた。党の代表権が、限定されたままであったことを意識して、共産党は、統一された行動から、党の規則を作ったし、党のより良い保証のように、選挙民の側に現れた。急進党員たちの控え目は、共産党員たちを、人民戦線の推進は、『プロレタリアートの統一党』が、道具になった、諸勢力の均衡を取り戻させることを経験するはずであったことを、考えるように仕向けた。確かに、ピレネーゾリアンタール県において、社会党の氾濫の共産党員たちの企ては、単に非常に局限された成功を手に入れた。しかしながら、民衆的運動の影響の時期において、彼らは、共産党が、左翼の選挙民の最も戦闘的な部分の中心に、一挙に突き進んだ、言葉と態度を見付けることはできたことを、指示した。社会的正義、人民戦線諸協定の尊重、人民の及びプロレタリアートの統一と戦闘的反ファシズム、そのようなものたちは、外部の同様に内部の政治に関し



て、共産党が、党の行動において同様に党の宣伝において、自由放任するように努力したことを、単純な鍵であった。共産党が、一九三六年四月―五月の国政選挙の時、獲得した、影響力の維持、さらには増大、党の組織の続く発展は、少なくともこの点について、党の成功は、完全であったことを指示するはずであった。<sup>(五)</sup>

―一九九二―一六―二〇、成稿―

(1) Cf Michel Cadé, *Le Parti des Campagnes Rouges (赤色キャンペーンの共産党) - Histoire du Parti Communiste dans Les Pyrénées-Orientales 1920-1939*, Editions du Chendant, Vnra, 1988, 346 p

原資料―新聞、文書（五〇年振りで公開、国家文書、F72 一般警察及び F22 組合組織、スト等の関係シリーズ）、ピレネー・ソリアンタール県文書（M11 一般行政シリーズ、等）、マルクス主義研究所文書、証言。図書目録―一般的な特徴で著作、Kriegel, Anne, *Le Pain et les roses*, Jalons pour une histoire des Socialistes, Paris, Presses Universitaires de France, 1968, 255 p (Coll Hier), etc 地方的な特徴で著作 Cadé, Michel, "La grève des ouvriers agricoles de Rivesaltes en 1928", *Annales du Midi*, N°169 octobre-décembre, 1983, pp 403-440, etc Cf M Cadé, o. c., pp. 333-343

ミシュエル・カデは、一九四二年生まれ、歴史教授資格所有者、第三課程博士、カタルニャ労働運動、フランス革命及び映画と歴史の間の諸関係について諸論文の著者である。彼は、コンフラン出版社で『ピレネー・ソリアンタール県における社会党の歴史』を出版した。『フィルムライブラリー諸雑誌』の編集メンバー、『マルクス主義研究所歴史雑誌』の編集会議メンバー、現代の時期で国境の諸問題について研究センター書記、彼は、フランソワ・アラゴ François Arago 11リセで歴史を教育し、ベルビニアン大学で講義で委任される。

共産党の歴史は、孤立状態から外に出る。トゥールーズ大学の前に主張された第三課程論文から引き出された。M11カデの著作の功績及び斬新さは、農村環境で『労働者党』の開花の明白な逆説を取り組むことである。原資料の大きな幅の上に建てられた、この仕事は、諸事実の年表的展開に彼の場所を空ける。両大戦間、ピレネー・ソリアンタール県の歴史について、特に北カタルニャのスペインの諸事件に対して常に生き生きとした感受性について、新しい諸展望を切り開いて、著者は、フランス共産党の性格の問題のように、もっと一般的な諸問題を提起し、地方史が言葉の完全な意味で歴史であるように証明する。(M11カデの著書の裏表紙から。)

ピレネー・リゾリアンタール県、九六県の中六六県。フランスの最南西部。スペインと密接な県である（一七世紀まで、スペインのカタルニャ地方に所属していた）。県の面積は、ほぼ鹿児島県（日本の南西部）の大隅半島に似ている。

(11) Cf. *Ibid.*, pp. 177-198

(111) Cf. *Ibid.*, pp. 198-218 Cf. Jean Jacques Becker, *Le Parti communiste veut-il prendre le pouvoir?*, Paris, Editions du Seuil, 1981, etc. 一九三六年四月二六日の五月三日の国民議会議員選挙一全体の結果。同上。共産党の立候補者たちによって手に入れられた結果。同上。共産党の立候補者たちによって第一回投票で手に入れられた結果。Cf. *Ibid.*, pp. 204-207.

黒海の反乱—ロシア革命への干渉のため黒海に出動したフランス艦隊では、戦艦の水兵 A II マルティイ等が艦長の命令を拒否して反乱、マストに赤旗を翻してトゥーロン港に帰った。反乱は間もなく鎮圧され、逮捕された参加兵たちは本国に送還されたが、釈放運動が激発した。トレーズ、北原訳「人民の子」大月書店、一九七八年、三四、一二七頁、参照。Cf. *Ibid.*, p. 220

アンドレ・マルティイ—一八七一年のバリココミューン参加者の息子として、一八八六年にフランス（ペルピニャン人）で生まれた。一九〇八年に機械工としてフランス海軍に入隊し、第一次世界大戦中には種々のフランス海軍部隊に勤務し、機械技師の位に昇進した。一九一八年一月の彼の船はフランス艦隊とともに黒海に送られ、そこで、黒海の叛乱として、共産主義者の宣伝で知られる運動に加わった。一九一九年四月に逮捕され、七月にはフランス軍事法廷から二〇年間の重労働刑に処された。しかし、一九二三年七月に釈放された。一九二三年九月に彼はフランス共産党に入党し、一九二四年には共産党議員に当選した。

一九二五年初め、フランス共産党中央委員会の委員となった。三月には初めてコミンテルン執行委員会拡大総会に参加した。一九二七年八月に彼は—モロッコ戦争反対キャンペーンの罪で—再び逮捕された。一九二八年には議席を失ったけれども、一九二九年に再選され、一九五五年末まで議会に留まった。バルベシロールグループの告発に関与した後、彼は一九三一年に党政治局の局員に選ばれた。一九三二年にはコミンテルンへのフランス共産党代表として、モスクワに派遣された。一九三二年八月から九月にかけて、第二回コミンテルン執行委員会総会に出席し、以来、一九四三年のコミンテルンの解散まで、コミンテルン執行委員会に属した。一九三三年一二月に第一三回コミンテルン執行委員会総会に出席し、また、一九三五年にはコミンテルン第七回大会に出席して、挨拶をし、コミンテルン執行委員会の常任幹部会員及び書記局員となった。スペイン内乱が一九三六年に勃発した後、モスクワは彼を国際旅団の司令官に任命し、その地位を彼らがフランスに撤退するまで保有した。一九三九年夏、モスクワに呼び戻され、そこでは第二次世界大戦中、コミンテルン指導部に加わった。彼の署名が一九四三年五月のコミンテルン解散文書に現れた。一九四三年一〇月に彼はフランス臨時政府所在地のアルジェに行き、そこで、臨時議会でフランス共産党を代表し、党指導部に参加した。一九四五年の第一〇回フランス共産党大会で、さらにまた一九四七年、一九五〇年にも政

治局員と中央委員会書記局員に再選された。しかし、一九五二年には党内の分派闘争を扇動したことや警察と協力したことを非難された。これらの告発は九月に書記局、一〇月に政治局からの排除と、最終的には一九五三年一月のフランス共産党からの除名という結果をもたらした。一九五五年に著作『マルティ事件』を刊行した。一九五六年に死去した。ラジッチ、ドラチコヴィチ、勝部、飛田訳『コミンテルン人名事典』一九八〇年、二四六―二四七頁、参照。マルティは、典型的なスターリン主義者 Stalinen となった。ジャン＝マルティ Jean Marty は、アンドレ＝マルティの弟であり、医師の資格を持って、ピレネー＝ソリアンタール県の共産党の幹部であった。ミシェル＝マルティ Michel Marty は、アンドレの次弟であり、同県の共産党のシンパであった。Cf Ibid., pp. 3, 29, 44, 59-71, 211.

(四) Cf Ibid., pp 219-236. Cf Marcel Thouret, L'itinéraire d' un cadre communiste 1935-1950 *Du stalinisme au trotskysme*, Privat, 1980, etc. Cf Michel Cadé, les communistes des Pyrénées-Orientales et l'Espagne, 1936-1939, pp. 9-23, in: Cahiers d'Histoire de l'Institut de Recherches Marxistes (CHIRM), L'Espagne au coeur, Sommaire n°29, 1987.

(五) Cf Ibid., pp 236-255 拙著『フランス人民戦線論史序説』法律文化社、一九七七年、九三、一〇二、四四―四五、二七六―二七七、二九九―三〇〇頁、参照。

#### 付記

(一) 主要参考文献は、Cf CHIRM, Parti Communiste, Sommaire n°43, 1990, R. Robin, Masses et culture de masse dans les années trente, Ed ouvrières, 1991, J-P Brunet, Histoire du Front populaire, Paris, 1991, R. Vieu, 36-39 du Front populaire à la Guerre, Paris, 1991, etc である。

(二) 著者は、今年、Centre de Recherches d' Histoire des Mouvements Sociaux et du Syndicalisme (CRHMSS), Université de Paris I, Bulletin n°15, 1992 をまだ寄贈されていない。外国で八二二種、国内で八二六種、合計一、六五八種である。(九二一―九二二〇、現在)。